

第16回（平成19年4月）

# 統一地方選挙の実態

——調査結果の概要——

平成20年2月

財団法人 明るい選挙推進協会

## は し が き

財団法人 明るい選挙推進協会では、第16回統一地方選挙(平成19年4月8日都道府県・指定都市、4月22日市区町村)における有権者の投票行動と意識を探り、今後の選挙啓発活動に資するため、全国の有権者3,000人を対象として、面接調査の方法により調査いたしました。

本調査の企画、実施に当たりましては、東京大学教授 蒲島郁夫氏、首都大学東京准教授 今井亮佑氏にご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

なお、本書「Ⅳ 調査結果の概要」につきましても、蒲島教授、今井准教授にご執筆いただきました。

本調査が、今後の新しい啓発事業の企画検討のよき参考資料となることを願ってやみません。

平成20年2月

財団法人 明るい選挙推進協会

# 目 次

I	調査の設計	1
II	標本抽出方法	3
III	質問表と回答の単純分布	6
IV	調査結果の概要	23
1	はじめに	23
2	選挙結果から	24
(1)	投票率	24
(2)	選挙競争率	26
3	選挙関心度	28
4	投票－棄権の選択	32
(1)	社会的属性による相違	32
(2)	社会・政治意識の影響	35
5	投票・棄権の理由、投票決定時期	38
6	政党支持と投票	42
(1)	政党支持	42
(2)	政党支持と投票行動	43
(3)	考慮した問題	44
7	選挙関連情報源への接触	46
(1)	情報媒体への接触度・有効度と効率性	46
(2)	候補者情報の不足	50
8	選挙のあり方	52
(1)	無投票当選の是非	52
(2)	地元推薦について	53
9	国と地方の政治の評価	54
10	明るい選挙推進協議会の認知度	55
11	政治家の寄附禁止の周知	57

12	投票時間の延長について.....	58
13	清潔度の印象.....	59
14	まとめ.....	60
	付録：調査対象者の社会的属性.....	62

# I 調査の設計

## 1 調査の目的

この調査は、平成19年4月8日と4月22日に執行された第16回統一地方選挙における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的とする。

## 2 調査の項目

この調査は、次を調査の項目とした。

- (1) 知事選挙の投票の経緯
- (2) 道府県議会議員選挙の投票の経緯
- (3) 市区町村長選挙の投票の経緯
- (4) 市区町村議会議員選挙の投票の経緯
- (5) 地方選挙に関する意向
- (6) 政治に対する関心と態度

## 3 調査の設計

この調査は、次のように設計した。

- (1) 調査地域 全国(統一地方選挙として選挙が執行されなかった沖縄県と茨城県の一部を除く)
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 標本抽出 選挙人名簿を使用
- (5) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
- (6) 調査方法 調査員による面接調査
- (7) 調査時期 平成19年5月2日から6月3日まで
- (8) 調査実施委託機関 社団法人 中央調査社

## 4 回収結果

- (1) 有効回収数 1,837(61.2%)
- (2) 回収不能数 1,163(38.3%)
- (3) 回収不能理由内訳

転居	35( 1.2%)	住所不明	28( 0.9%)
長期不在	86( 2.9%)	拒否	534(17.8%)
一時不在	446(14.9%)	その他	34( 1.1%)

(4) 男女別・年齢別、都市規模別回収結果

①男性

年齢	標本数	回収数	回収率 (%)
20歳代前半	70	30	42.9
20歳代後半	94	28	29.8
30歳代	228	110	48.2
40歳代	235	134	57.0
50歳代	281	156	55.5
60歳代	300	212	70.7
70歳代	189	142	75.1
80歳以上	61	39	63.9
合計	1,458	851	58.4

②女性

年齢	標本数	回収数	回収率 (%)
20歳代前半	80	32	40.0
20歳代後半	102	48	47.1
30歳代	244	140	57.4
40歳代	230	148	64.3
50歳代	299	203	67.9
60歳代	296	209	70.6
70歳代	208	157	75.5
80歳以上	83	49	59.0
合計	1,542	986	63.9

③都市規模別

都市規模	標本数	回収数	回収率 (%)
大都市	795	410	51.6
人口10万人以上の市	1,247	797	63.9
人口10万人未満の市	644	426	66.1
町村	314	204	65.0
合計	3,000	1,837	61.2

## Ⅱ 標本抽出方法

1 母集団：全国の市区町村に居住する満20歳以上の者  
(沖縄県と茨城県の一部は除く)

2 標本数：3,000人

3 地点数：201市区町村 203地点

4 抽出方法：層化2段無作為抽出法  
〔層化〕

(1) 全国の市区町村を、都道府県を単位として次の11地区に分類した。

北海道地区	北海道	(1道)
東北地区	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	(6県)
関東地区	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	(1都6県)
北陸地域	新潟県、富山県、石川県、福井県	(4県)
東山地区	山梨県、長野県、岐阜県	(3県)
東海地区	静岡県、愛知県、三重県	(3県)
近畿地区	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	(2府4県)
中国地区	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	(5県)
四国地区	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	(4県)
北九州地区	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	(4県)
南九州地区	熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	(4県)

(2) 各地区内においては、さらに都市規模により次のように21分類し、それぞれを第一次層として計51層とした。

・大都市(各都市ごとに分類)

(東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市)

・人口10万人以上の市

・人口10万人未満の市

・町村

(注)ここでいう市とは、平成19年4月1日現在市制施行の地域である。

(3) 各地区・都市規模の層別における母集団人口(平成18年3月31日現在の満20歳以上の人口)の大きさにより、3,000の標本数を比例配分し、1調査地点の標本が15人前後になるように調査地点数を決めた。

〔抽出〕

- (1) 第一次抽出単位となる調査地点として、平成12年国勢調査時に設定された調査地区を使用した。
- (2) 調査地点(調査区)の抽出は

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における20歳以上国勢調査人口の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

- (3) 抽出に際しての各層内における市区町村配列順序は、平成12年国勢調査時での市区町村コード順に従った。
- (4) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点(町・丁目・番地・地区などを指定)から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した。

5 結果

以上、抽出作業の結果得られた地区・都市規模別標本数・調査地点数は次の通りである。

( )内は調査地点数

地区	都市規模				計
	大都市	人口10万人以上の市	人口10万人未満の市	町村	
北海道	46( 3)	39( 3)	26( 2)	28( 2)	139( 10)
東北	24( 2)	91( 6)	71( 5)	48( 3)	234( 16)
関東	379(25)	405(25)	114( 7)	53( 4)	951( 61)
北陸	20( 2)	54( 4)	47( 3)	13( 1)	134( 10)
東山		48( 3)	53( 4)	23( 2)	124( 9)
東海	89( 8)	128( 8)	59( 4)	30( 2)	306( 22)
近畿	153(11)	211(13)	104( 7)	32( 2)	500( 33)
中国	27( 2)	104( 7)	38( 3)	17( 1)	186( 13)
四国		50( 3)	34( 2)	18( 2)	102( 7)
北九州	57( 4)	59( 4)	64( 4)	27( 2)	207( 14)
南九州		58( 4)	34( 2)	25( 2)	117( 8)
計	795(57)	1, 247(80)	644(43)	314(23)	3, 000(203)

大都市(各都市別)

東京都区部	210(13)	川崎市	32( 2)	名古屋市	52( 4)
広島市	27( 2)	札幌市	46( 3)	横浜市	87( 6)
京都市	34( 2)	北九州市	24( 2)	仙台市	24( 2)
新潟市	20( 2)	大阪市	62( 4)	福岡市	33( 2)
さいたま市	28( 2)	静岡市	18( 2)	堺市	20( 2)
千葉市	22( 2)	浜松市	19( 2)	神戸市	37( 3)

### Ⅲ 質問表と回答の単純分布

第 8696 号

## 統一地方選挙に関する意識調査

平成19年 5月  
社団法人 中央調査社

支局番号		地点番号			対象番号		調査月日	
							月	日

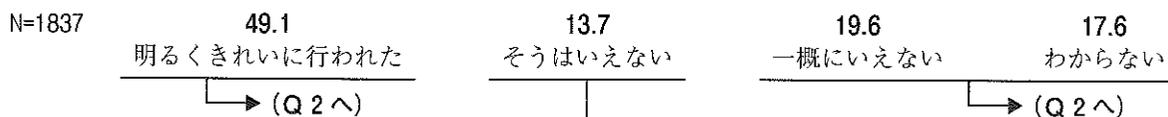
財団法人 明るい選挙推進協会から委託を受けて選挙に関するご意見をいただきたくお伺いしました。この調査は、全国の有権者を対象に、先日行われた統一地方選挙の投票行動における実態把握等を中心にして、あなたのご意見をお伺いし、今後の選挙違反のないきれいで明るい選挙推進方法に資する研究材料の作成を目的としております。お答えいただいた内容はすべて統計的に処理して、どなたがどのような回答をされたかについて知られることは一切ありません。率直なご意見をお聞かせ願います。

どうしても答えられないときは「わからない」とおっしゃっていただいて結構ですので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

シートNo=01

【全員に】

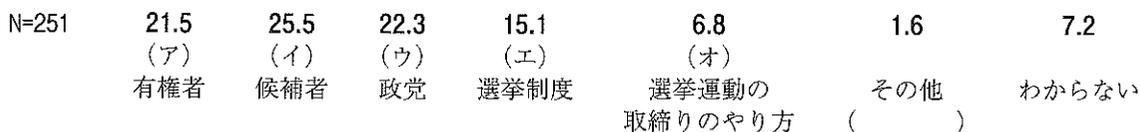
Q 1. 今回の統一地方選挙は、全体として明るくきれいな選挙が行われたと思いますか、そうはいえないと思いますか。



S Q 1. それはどういう点ですか。具体的におっしゃってください。(F.A.)

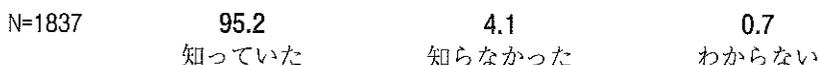


S Q 2. 【回答票 1】 今回の選挙が明るくきれに行われなかったのは、主としてこの中のどれに責任があると思いますか。1つ選んでください。



【全員に】

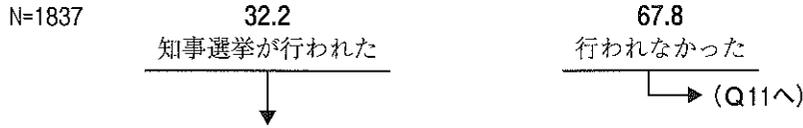
Q 2. 仕事や旅行、冠婚葬祭などで投票日当日に投票できない方が、告示日の翌日から投票日の前日までの間、投票することができる期日前投票制度をあなたはご存知でしたか。



〔全員に〕

〔I 知事選挙〕

Q 3.〔調査員記入〕 調査地点では知事選挙が行われたかをチェックし、行われていれば該当する都道府県の番号にも○印をつける。



S Q.〔都道府県名〕

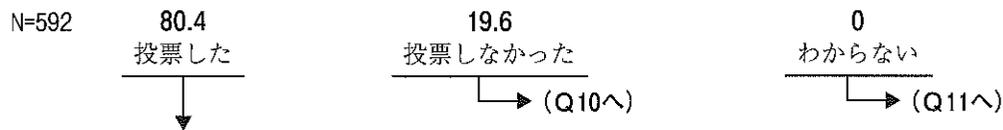
N=592	14.7	北海道	5.7	福井県	1.9	鳥根県	3.4	大分県
	5.1	岩手県	3.4	三重県	4.1	徳島県		
	23.1	東京都	5.4	奈良県	10.8	福岡県		
	18.8	神奈川県	3.7	鳥取県	0	佐賀県		

Q 4.〔回答票 2〕 今回の知事選挙について、あなた自身は、どれくらい関心を持ちましたか。

N=592

27.9	48.0	20.4	3.5	0.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
非常に 関心をもった	多少は 関心をもった	ほとんど関心を もたなかった	全く関心を もたなかった	わからない

Q 5. あなたは、4月8日に行われた知事選挙で、投票しましたか、しませんでしたか。



Q 6.〔回答票 3〕 知事選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

N=476

11.8	(ア)	どうしても当選させたい候補者がいたから
4.6	(イ)	もりたてたい政党があったから
13.0	(ウ)	今の政治がよくないので、それを改めたいと思ったから
31.3	(エ)	政治をよくするためには投票することが大事だから
35.3	(オ)	投票するのは住民の義務だから
2.3	(カ)	団体、地元、知り合いにたのまれて
0.6		その他 ( )
1.1		わからない

【調査員注】 調査地点が……



S Q 1. 当日投票しましたか。期日前投票・不在者投票をしましたか。

N=108	<b>90.7</b> 当日投票をした	<b>8.3</b> 期日前投票をした → (S Q 3 へ)	<b>0.9</b> 不在者投票をした → (Q 7 へ)
-------	------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

S Q 2. 投票したのは何時ごろですか。

N=98	2.0 午前7時台	7.1 午後0時台	4.1 午後5時台	} (Q 7 へ)
	11.2 午前8時台	9.2 午後1時台	2.0 午後6時台	
	8.2 午前9時台	8.2 午後2時台	1.0 午後7時～午後8時	
	13.3 午前10時台	13.3 午後3時台	1.0 わからない	
	10.2 午前11時台	9.2 午後4時台		

〔S Q 1で「2 期日前投票をした」と答えた人に〕

S Q 3. [回答票 4] 期日前投票をしたのはいつでしたか。

N=9	0 (ア) 告示日の翌日 (3月23日 (金曜日))	0 (エ) 投票日の前日
	55.6 (イ) 投票日の4日以上前	0 わからない
	44.4 (ウ) 投票日の2、3日前	

S Q 4. [回答票 5] 期日前投票をしたのは何時ごろですか。

N=9	<b>33.3</b>	<b>66.7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
	(ア)	(イ)	(ウ)	
	午前中	午後	午後6時～午後8時	わからない

〔Q 5で「1 投票した」と答えた人に〕

Q 7. [回答票 6] 知事選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にあればあげてください。  
(M.A.)

N=476	46.8 (ア) 医療・介護	15.5 (ケ) 少子化	9.2 (チ) 地方の財政再建
	20.0 (イ) 環境	2.5 (コ) 食糧	6.7 (ツ) 中小企業対策
	25.6 (ウ) 教育	29.0 (サ) 税金	27.3 (テ) 年金
	29.0 (エ) 景気・雇用	12.8 (シ) 治安	4.4 (ト) 農林水産業の振興
	28.8 (オ) 高齢化	10.1 (ス) 地域振興	1.7 その他 ( )
	6.9 (カ) 国政の動向	4.8 (セ) 地方議会の改革	12.2 政策は考えなかった
	11.1 (キ) 災害対策	8.4 (ソ) 地方自治のあり方	1.9 わからない
	2.7 (ク) 社会資本整備	10.9 (タ) 地方の行政改革	

Q 8. [回答票 7] あなたが知事選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。この中から、おっしゃってください。

N=476	28.8 (ア) 選挙期間に入る前から	5.5 (オ) 投票日の2、3日前
	45.8 (イ) 候補者が出揃ったとき	3.2 (カ) 投票日の前日
	5.9 (ウ) 投票日一週間前の週末 (土・日)	6.7 (キ) 投票日当日
	3.4 (エ) 投票日の4日以上前	0.8 わからない

Q 9. 知事選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

N=476	<b>18.1</b>	<b>70.0</b>	<b>10.3</b>	<b>1.7</b>
	政党関係を重くみて	候補者個人を重くみて	一概にいえない	わからない

〔調査員注：次はQ11へ〕

〔Q5で「2 投票しなかった」と答えた人に〕

Q10.〔回答票8〕知事選挙で、あなたが、投票しなかったのはなぜですか。この中からあげてください。  
(M.A.)

- N=116
- 44.8 (ア) 用があったから
  - 9.5 (イ) 病気だったから
  - 6.9 (ウ) 面倒だから (投票所が遠いからを含む)
  - 24.1 (エ) 選挙にあまり関心がなかったから
  - 11.2 (オ) 政策や候補者の人物などについて、事情がよくわからなかったから
  - 12.9 (カ) 適当な候補者がいなかったから
  - 4.3 (キ) 私一人が投票してもしなくても同じだから
  - 2.6 (ク) 選挙結果が予想できるような無風選挙であったから
  - 4.3 (ケ) 選挙によっては政治はよくなると思ったから
  - 0 (コ) 今住んでいる所に選挙権がないから
  - 8.6 その他 ( )
  - 0.9 わからない

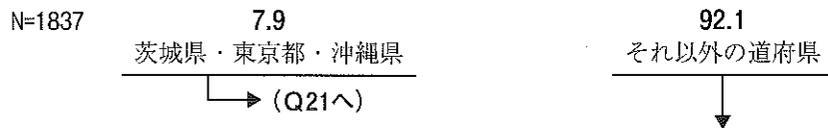
S Q.〔回答票9〕なぜ、期日前投票をしなかったのですか。

- N=52
- 3.8 (ア) 期日前投票ができることを知らなかったから
  - 1.9 (イ) 選挙期間中、出張等で不在だったから
  - 57.7 (ウ) 期日前投票をする時間もなかったから
  - 9.6 (エ) 期日前投票所に行くのが面倒だったから
  - 26.9 その他 ( )
  - 0 わからない

〔全員に〕

〔Ⅱ 道府県議会議員選挙〕

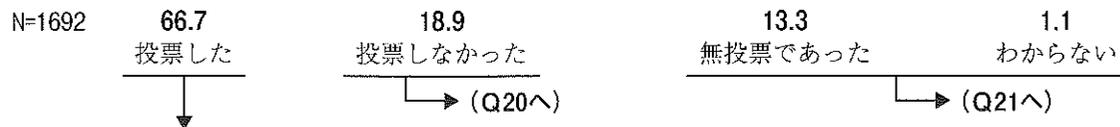
Q11.〔調査員記入〕調査地点の都道府県によって1または2のどちらかに分類する。



Q12.〔回答票10〕今回の県(道・府)議会議員の選挙について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか。

- N=1692
- |               |               |                   |                 |       |
|---------------|---------------|-------------------|-----------------|-------|
| 21.0<br>(ア)   | 47.5<br>(イ)   | 24.0<br>(ウ)       | 6.1<br>(エ)      | 1.4   |
| 非常に<br>関心をもった | 多少は<br>関心をもった | ほとんど関心を<br>もたなかった | 全く関心を<br>もたなかった | わからない |

Q13. あなたは、4月8日に行われた県(道・府)議会議員の選挙で投票しましたか、しませんでしたか。



Q14.〔回答票11〕県(道・府)議会議員の選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

- N=1129
- 24.6 (ア) どうしても当選させたい候補者がいたから
  - 5.4 (イ) もりたてたい政党があったから
  - 7.5 (ウ) 今の政治がよくないので、それを改めたいと思ったから
  - 22.7 (エ) 政治をよくするためには投票することが大事だから
  - 31.6 (オ) 投票するのは住民の義務だから
  - 6.0 (カ) 団体、地元、知り合いにたのまれて
  - 1.2 その他 ( )
  - 0.9 わからない

S Q 1. 当日投票しましたか、期日前投票・不在者投票をしましたか。

N=1129	<b>90.9</b> 当日投票した	<b>8.1</b> 期日前投票をした	<b>1.0</b> 不在者投票をした
	↓	→ (S Q 3へ)	→ (Q 15へ)

S Q 2. 投票したのは何時ごろですか。

N=1026	<b>5.8</b> 午前7時台	<b>3.2</b> 午後0時台	<b>5.8</b> 午後5時台	} (Q 15へ)
	<b>10.3</b> 午前8時台	<b>6.6</b> 午後1時台	<b>5.6</b> 午後6時台	
	<b>12.7</b> 午前9時台	<b>6.0</b> 午後2時台	<b>4.0</b> 午後7時～午後8時	
	<b>17.2</b> 午前10時台	<b>4.8</b> 午後3時台	<b>1.0</b> わからない	
	<b>12.1</b> 午前11時台	<b>5.0</b> 午後4時台		

[S Q 1で「2 期日前投票をした」と答えた人に]

S Q 3. [回答票12] 期日前投票をしたのはいつでしたか。

N=92	<b>9.8</b> (ア) 告示日の翌日 (3月31日 (土曜日))	<b>20.7</b> (エ) 投票日の前日
	<b>34.8</b> (イ) 投票日の4日以上前	<b>0</b> (オ) 投票日当日
	<b>29.3</b> (ウ) 投票日の2、3日前	<b>5.4</b> わからない

S Q 4. [回答票13] 期日前投票をしたのは何時ごろですか。

N=92	<b>51.1</b>	<b>38.0</b>	<b>8.7</b>	<b>2.2</b>
	(ア)	(イ)	(ウ)	
	午前中	午後	午後6時～午後8時	わからない

[Q 13で「1 投票した」と答えた人に]

Q 15. [回答票14] 県 (道・府) 議会議員の選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にあればあげてください。(M.A.)

N=1129	<b>46.6</b> (ア) 医療・介護	<b>14.6</b> (ケ) 少子化	<b>8.9</b> (チ) 地方の財政再建
	<b>16.0</b> (イ) 環境	<b>3.9</b> (コ) 食糧	<b>6.6</b> (ツ) 中小企業対策
	<b>24.1</b> (ウ) 教育	<b>26.4</b> (サ) 税金	<b>29.9</b> (テ) 年金
	<b>25.0</b> (エ) 景気・雇用	<b>8.9</b> (シ) 治安	<b>6.2</b> (ト) 農林水産業の振興
	<b>29.6</b> (オ) 高齢化	<b>15.3</b> (ス) 地域振興	<b>0.8</b> その他 ( )
	<b>6.3</b> (カ) 国政の動向	<b>6.5</b> (セ) 地方議会の改革	<b>11.5</b> 政策は考えなかった
	<b>9.0</b> (キ) 災害対策	<b>10.8</b> (ソ) 地方自治のあり方	<b>1.8</b> わからない
	<b>2.6</b> (ク) 社会資本整備	<b>10.6</b> (タ) 地方の行政改革	

Q 16. 県 (道・府) 議会議員の選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。おさしつかえなければおっしゃってください。

N=1129	<b>42.9</b> 自由民主党	<b>0</b> 新党日本
	<b>15.9</b> 民主党	<b>0</b> 新党大地
	<b>5.3</b> 公明党	<b>0.1</b> (生活者・市民) ネットワーク
	<b>3.8</b> 日本共産党	<b>0.1</b> その他 ( )
	<b>1.3</b> 社会民主党	<b>12.4</b> 無所属
	<b>0</b> 国民新党	<b>18.2</b> わからない

Q17. 前回の統一地方選挙（平成15年4月）の県（道・府）議会議員の選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。

N=1129	42.6	自由民主党	0	（生活者・市民）ネットワーク
	13.2	民主党	0.1	その他（ ）
	5.4	公明党	7.0	無所属
	3.4	日本共産党	2.0	選挙権がなかった
	0.3	自由党	1.8	棄権した
	1.4	社会民主党	1.7	無投票であった
	0	保守新党	21.2	わからない

Q18. [回答票15] あなたが、県（道・府）議会議員の選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。この中からおっしゃってください。

N=1129	42.7	（ア）選挙期間に入る前から	3.0	（オ）投票日の前日
	34.5	（イ）候補者が出揃ったとき	6.7	（カ）投票日当日
	5.6	（ウ）投票日の4日以上前	1.4	わからない
	6.1	（エ）投票日の2、3日前		

Q19. 県（道・府）議会議員の選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

N=1129	24.3	63.9	10.4	1.5
	政党関係を重くみて	候補者個人を重くみて	一概にいけない	わからない

〔調査員注：次はQ21へ〕

〔Q13で「2 投票しなかった」と答えた人に〕

Q20. [回答票16] 県（道・府）議会議員の選挙で投票しなかったのはなぜですか。この中からあげてください。（M.A.）

N=319	43.9	（ア）用があったから
	9.4	（イ）病気だったから
	4.7	（ウ）面倒だから（投票所が遠いからを含む）
	22.6	（エ）選挙にあまり関心がなかったから
	12.9	（オ）政策や候補者の人物などについて、事情がよくわからなかったから
	10.7	（カ）適当な候補者がいなかったから
	4.1	（キ）私一人が投票してもしなくても同じだから
	1.3	（ク）選挙結果が予想できるような無風選挙であったから
	4.7	（ケ）選挙によっては政治はよくなると思ったから
	0	（コ）今住んでいる所に選挙権がないから
	7.2	その他（ ）
	0.9	わからない

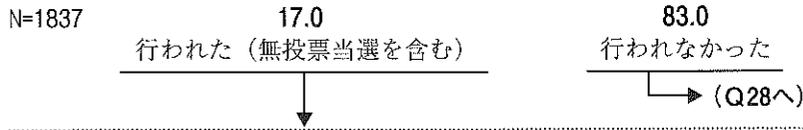
S Q. [回答票17] なぜ期日前投票をしなかったのですか。

N=140	2.9	（ア）期日前投票ができることを知らなかったから
	2.1	（イ）選挙期間中、出張等で不在だったから
	56.4	（ウ）期日前投票をする時間もなかったから
	16.4	（エ）期日前投票所に行くのが面倒だったから
	19.3	その他（ ）
	2.9	わからない

[全員に]

[Ⅲ 市区町村長選挙]

Q21. [調査員記入] 調査地点では4月8日または22日に市区町村長選挙が行われたかをチェックし、行われていれば該当する選挙の種類番号にも○印をつける。



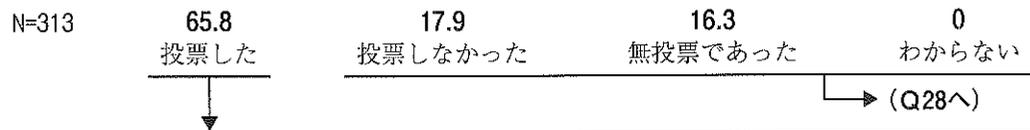
S Q. [選挙の種類]

N=313	77.3	16.6	6.1	0
	市長選挙	東京23区(特別区)の区長選挙	町長選挙	村長選挙

Q22. [回答票18] 今回の市(区・町・村)長選挙について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか。

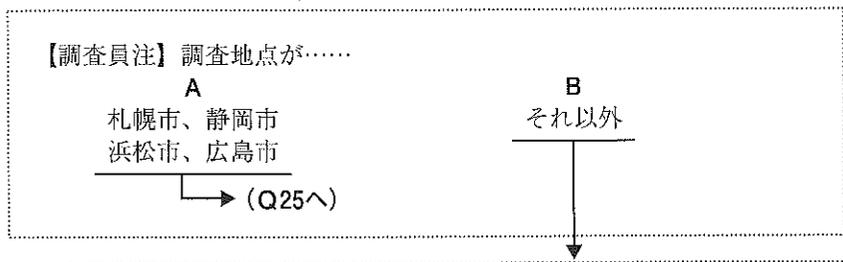
N=313	33.9	36.7	16.6	3.2	9.6
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
	非常に 関心をもった	多少は 関心をもった	ほとんど関心を もたなかった	全く関心を もたなかった	わからない

Q23. あなたは4月8日の指定都市市長選挙、4月22日の市区町村長選挙で投票しましたか。



Q24. [回答票19] 市(区・町・村)長選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

- N=206
- 24.3 (ア) どうしても当選させたい候補者がいたから
  - 2.4 (イ) もりたてたい政党があったから
  - 11.7 (ウ) 今の政治がよくないので、それを改めたいと思ったから
  - 24.3 (エ) 政治をよくするためには投票することが大事だから
  - 33.0 (オ) 投票するのは住民の義務だから
  - 2.4 (カ) 団体、地元、知り合いにたのまれて
  - 1.9 その他 ( )
  - 0 わからない



S Q. 当日投票しましたか、期日前投票・不在者投票をしましたか。

N=148	90.5	8.8	0.7
	当日投票をした	期日前投票をした	不在者投票をした

〔Q23で「1 投票した」と答えた人に〕

Q25.〔回答票20〕市（区・町・村）長選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にあればあげてください。（M.A.）

N=206	49.5	(ア) 医療・介護	13.6	(ケ) 少子化	16.0	(チ) 地方の財政再建
	23.8	(イ) 環境	6.8	(コ) 食糧	7.8	(ツ) 中小企業対策
	30.1	(ウ) 教育	33.0	(サ) 税金	27.7	(テ) 年金
	26.7	(エ) 景気・雇用	13.6	(シ) 治安	6.3	(ト) 農林水産業の振興
	28.6	(オ) 高齢化	19.9	(ス) 地域振興	0	その他（ ）
	5.3	(カ) 国政の動向	10.2	(セ) 地方議会の改革	11.2	政策は考えなかった
	9.2	(キ) 災害対策	18.0	(ソ) 地方自治のあり方	1.5	わからない
	3.4	(ク) 社会資本整備	15.0	(タ) 地方の行政改革		

Q26.〔回答票21〕あなたが市（区・町・村）長選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。この中からおっしゃってください。

N=206	37.9	(ア) 選挙期間に入る前から	4.4	(オ) 投票日の前日
	41.3	(イ) 候補者が出揃ったとき	7.3	(カ) 投票日当日
	4.4	(ウ) 投票日の4日以上前	0	わからない
	4.9	(エ) 投票日の2、3日前		

Q27. 市（区・町・村）長選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

N=206	12.6	78.6	7.8	1.0
	政党関係を重くみて	候補者個人を重くみて	一概にいけない	わからない

〔全員に〕

〔IV 市区町村議会議員選挙〕

Q28.〔調査員記入〕調査地点では4月8日または22日に市区町村議会議員選挙が行われたかをチェックし、行われていれば該当する選挙の種類番号にも○印をつける。

N=1837	59.7	40.3
	行われた（無投票当選を含む）	行われなかった → (Q37へ)

S Q.〔選挙の種類〕

N=1096	26.6	4月8日に札幌、仙台、さいたま、千葉、川崎、横浜、新潟、浜松、名古屋、京都、大阪、堺、神戸、広島、福岡の15市で行われた市議会議員の選挙
	7.5	4月22日に東京23区（特別区）で行われた区議会議員の選挙
	56.5	4月22日にその他の市で行われた市議会議員の選挙
	9.4	4月22日に行われた町議会議員の選挙
	0	4月22日に行われた村議会議員の選挙

Q29.〔回答票22〕今回の市（区・町・村）議会議員の選挙について、あなた自身は、どれくらい関心を持ちましたか。

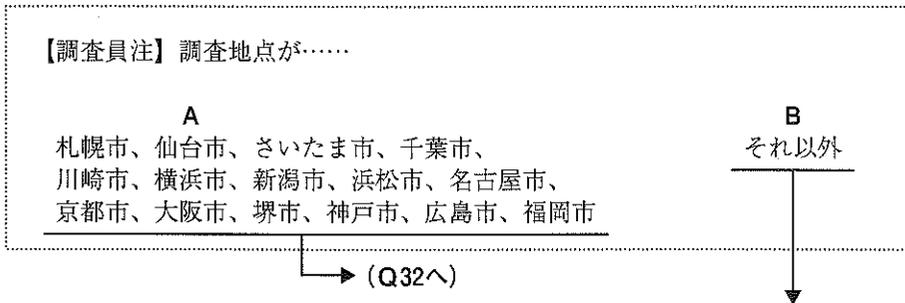
N=1096	29.0	44.8	17.3	5.7	3.2
	(ア) 非常に 関心をもった	(イ) 多少は 関心をもった	(ウ) ほとんど関心を もたなかった	(エ) 全く関心を もたなかった	わからない

Q30. あなたは4月8日の指定都市議会議員の選挙、4月22日の市区町村議会の選挙で投票しましたか。

N=1096	74.9	19.6	3.9	1.6
	投票した	投票しなかった	無投票であった	わからない
	↓	→ (Q36へ)		

Q31. 【回答票23】市(区・町・村)議会議員の選挙で投票したのはどういう気持ちからですか。この中から1つだけあげてください。

N=821	31.7	(ア) どうしても当選させたい候補者がいたから
	6.7	(イ) もりたてたい政党があったから
	7.1	(ウ) 今の政治がよくないので、それを改めたいと思ったから
	20.0	(エ) 政治をよくするためには投票することが大事だから
	25.2	(オ) 投票するのは住民の義務だから
	7.1	(カ) 団体、地元、知り合いにたのまれて
	1.0	その他 ( )
	1.3	わからない



S Q. 当日投票しましたか、期日前投票・不在者投票をしましたか。

N=621	94.0	5.0	1.0
	当日投票した	期日前投票をした	不在者投票をした

【Q30で「1 投票した」と答えた人に】

Q32. 【回答票24】市(区・町・村)議会議員の選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか。この中にあればあげてください。(M.A.)

N=821	48.8	(ア) 医療・介護	13.9	(ケ) 少子化	10.6	(チ) 地方の財政再建
	22.3	(イ) 環境	3.2	(コ) 食糧	6.2	(ツ) 中小企業対策
	26.6	(ウ) 教育	26.2	(サ) 税金	26.6	(テ) 年金
	20.8	(エ) 景気・雇用	9.4	(シ) 治安	3.5	(ト) 農林水産業の振興
	29.7	(オ) 高齢化	21.6	(ス) 地域振興	0.4	その他 ( )
	5.0	(カ) 国政の動向	8.6	(セ) 地方議会の改革	12.7	政策は考えなかった
	8.4	(キ) 災害対策	15.2	(ソ) 地方自治のあり方	1.2	わからない
	3.4	(ク) 社会資本整備	11.1	(タ) 地方の行政改革		

Q33. 市(区・町・村)議会議員の選挙で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。おさしつかえなければおっしゃってください。

N=821	30.7	自由民主党	0	新党日本
	14.4	民主党	0	新党大地
	6.5	公明党	0.1	(生活者・市民) ネットワーク
	5.1	日本共産党	0.2	その他 ( )
	0.9	社会民主党	23.8	無所属
	0	国民新党	18.4	わからない

Q34. [回答票25] あなたが市（区・町・村）議会議員の選挙で、その人に投票することに決めたのはいつごろですか。この中からおっしゃってください。

N=821	46.4	(ア) 選挙期間に入る前から	2.9	(オ) 投票日の前日
	30.3	(イ) 候補者が出揃ったとき	6.9	(カ) 投票日当日
	5.7	(ウ) 投票日の4日以上前	1.8	わからない
	5.8	(エ) 投票日の2、3日前		

Q35. 市（区・町・村）議会議員の選挙では、あなたは、政党関係を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。

N=821	21.8	70.9	6.7	0.6
	政党関係を重くみて	候補者個人を重くみて	一概にいけない	わからない

[Q28で「1行われた」と答えた人に]

Q36. 市（区・町・村）議会議員の選挙の場合、地元から議員を出そうというので、自治会・町内会・隣組などで候補者を推薦するということがよくありますが、この辺りでも今回の選挙でそういうことがありましたか。

N=1096	25.1	57.9	17.0
	あった	なかった	わからない
	↓		→ (Q37へ)

S Q. そのことはよいことだと思いますか、よくないことだと思いますか。

N=275	44.0	18.9	34.9	2.2
	よいと思う	よくないと思う	一概にいけない	わからない

シートNo=02

[全員に]

Q37. [回答票26] 役に立ったか立たなかったかは別として、統一地方選挙で、あなたが見たり、聞いたり、すすめられたりしたものが、この中にありましたら、**全部**おっしゃってください。

(M.A.)

N=1837	17.7	(ア) 候補者や政党（確認団体）の演説会
	22.8	(イ) 候補者や政党（確認団体）の街頭演説
	37.3	(ウ) 連呼
	29.5	(エ) 候補者や政党の新聞広告
	33.8	(オ) 候補者の葉書
	37.7	(カ) 候補者のビラ（manifesto）や政党（確認団体）のビラ（manifesto）
	30.6	(キ) 候補者や政党（確認団体）のポスター
	14.3	(ク) 候補者のテレビ政見放送（経歴放送を含む）
	2.9	(ケ) 候補者のラジオ政見放送（経歴放送を含む）
	31.7	(コ) 選挙公報
	9.7	(サ) 政党の機関紙
	27.4	(シ) 電話による勧誘
	12.7	(ス) 選挙熱心な人の勧誘
	11.8	(セ) 家族の話し合い
	9.8	(ソ) 近所の評判
	4.0	(タ) 職場での話し合い
	22.4	(チ) 友人・知人・親戚のすすめ
	2.6	(ツ) 上役や有力者のすすめ
	3.0	(テ) 労働組合関係のすいせん
	5.2	(ト) 仕事関係の団体（同業組合・商店会など）のすいせん
9.3	(ナ) 自治会・町内会・区会などのすいせん	
2.4	(ニ) その他の団体（宗教団体・文化団体など）のすいせん	
10.5	(ヌ) 後援会のすいせんや依頼	

- 17.9 (ネ) 新聞の選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 18.4 (ノ) テレビの選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 3.3 (ハ) ラジオの選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 1.3 (ヒ) 週刊誌・雑誌の選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 1.6 (フ) インターネット・ホームページ
  - 0.2 (ヘ) 携帯電話 (iモード等)
  - 1.9 (ホ) 公開討論会
  - 8.4 この中のどれも見聞きしない
  - 0.7 わからない
- } → (Q39へ)

〔Q37で1～30と答えた人に〕

Q38. [回答票27] 統一地方選挙で、候補者の情報を得るのに役に立ったものがこの中にありましたら、おっしゃってください。あなたが投票なさらなかった場合でもお答えください。いくつでも結構です。(M.A.)

- N=1670
- 10.0 (ア) 候補者や政党 (確認団体) の演説会
  - 10.5 (イ) 候補者や政党 (確認団体) の街頭演説
  - 6.5 (ウ) 連呼
  - 14.0 (エ) 候補者や政党の新聞広告
  - 11.9 (オ) 候補者の葉書
  - 22.1 (カ) 候補者のビラ (マニフェスト) や政党 (確認団体) のビラ (マニフェスト)
  - 9.0 (キ) 候補者や政党 (確認団体) のポスター
  - 8.2 (ク) 候補者のテレビ政見放送 (経歴放送を含む)
  - 1.1 (ケ) 候補者のラジオ政見放送 (経歴放送を含む)
  - 20.8 (コ) 選挙公報
  - 5.2 (サ) 政党の機関紙
  - 5.5 (シ) 電話による勧誘
  - 3.8 (ス) 選挙熱心な人の勧誘
  - 6.2 (セ) 家族の話し合い
  - 4.9 (ソ) 近所の評判
  - 1.7 (タ) 職場での話し合い
  - 12.2 (チ) 友人・知人・親戚のすすめ
  - 0.8 (ツ) 上役や有力者のすすめ
  - 1.7 (テ) 労働組合関係のすいせん
  - 2.0 (ト) 仕事関係の団体 (同業組合・商店会など) のすいせん
  - 5.1 (ナ) 自治会・町内会・区会などのすいせん
  - 1.1 (ニ) その他の団体 (宗教団体・文化団体など) のすいせん
  - 4.6 (ヌ) 後援会のすいせんや依頼
  - 10.7 (ネ) 新聞の選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 11.1 (ノ) テレビの選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 1.7 (ハ) ラジオの選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 0.7 (ヒ) 週刊誌・雑誌の選挙報道 (解説・評論を含む)
  - 1.1 (フ) インターネット・ホームページ
  - 0 (ヘ) 携帯電話 (iモード等)
  - 0.7 (ホ) 公開討論会
  - 20.2 役に立ったものはない
  - 1.7 わからない

[全員に]

[V 地方選挙全般について]

Q39. あなたは、今回の統一地方選挙の候補者の後援会に加入されていますか。

N=1837	21.4	78.1	0.5
	加入している	加入していない	わからない
	↓	→ (Q40へ)	

S Q 1. [回答票28] あなたは、その後援会にどういふことで加入されましたか。この中から選んでください。(M.A.)

N=393	31.8	(ア) その議員や候補者の人物や主義・主張がよいから
	56.2	(イ) いろいろな縁故や義理の関係から
	17.3	(ウ) 事業や職業上の関係から
	1.8	その他 ( )
	0.8	わからない

S Q 2. あなたは、その後援会の会費を払っていますか、いませんか。

N=393	5.1	94.7	0.3
	いる	いない	わからない

[全員に]

Q40. 地方選挙で「候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る」という声があります。最近の地方選挙で、あなたは、そうお感じになったことがありますか。

N=1837	42.8	51.6	5.6
	ある	ない	わからない
	↓	→ (Q41へ)	

S Q. [回答票29] どの選挙でしたか。(M.A.)

N=787	34.2	62.5	29.9	48.3	4.1
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
	知事選挙	県(都・道・府) 議会議員選挙	市(区・町・村) 長選挙	市(区・町・村) 議会議員選挙	わからない

[全員に]

Q41. [回答票30] 今回の統一地方選挙では、道府県議会議員選挙や市区町村長選挙などに無投票当選がありますが、これについてあなたはどう思われますか。この中からあなたの気持ちに近いものを1つだけあげてください。

N=1837	40.4	(ア) 公職者(首長や議会議員)は投票で決めるのが本筋であるのに、投票なしに決まるのはおかしい
	41.1	(イ) 定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になっても仕方がない
	9.4	(ウ) 選挙のわずらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい
	0.7	その他 ( )
	8.4	わからない

Q42. [回答票31] 地方議会の議員の定数についてあなたはどう思われますか。

N=1837	24.3	56.0	1.6	7.9	10.1
	(ア)	(イ)	(ウ)		
	現状でよい	減らしたほうがよい	増やしたほうがよい	一概にいえない	わからない

[全員に]

[VI 政治・選挙一般について]

では、4月に行われた統一地方選挙をはなれて、政治や選挙一般についてのご意見をいくつかお伺いしたいと存じます。

Q43. [回答票32] 日本の政治を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どのような感じをお持ちになりますか。

N=1837	0.2	21.2	54.6	15.1	5.6	3.4
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)		
	非常によい	まあよい	あまりよくない	非常に悪い	どちらともいえない	わからない

Q44. [回答票32] あなたの県（都・道・府）の政治を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どのような感じをお持ちになりますか。

N=1837	1.0	37.2	36.0	7.7	8.8	9.3
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)		
	非常によい	まあよい	あまりよくない	非常に悪い	どちらともいえない	わからない

Q45. [回答票32] あなたの市（区・町・村）の政治を全体として考えた場合、「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」のうち、どのような感じをお持ちになりますか。

N=1837	1.5	39.1	35.8	7.8	8.7	7.1
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)		
	非常によい	まあよい	あまりよくない	非常に悪い	どちらともいえない	わからない

Q46. [回答票33] あなたは、現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。

N=1837	3.9	51.6	21.2	18.2	4.5	0.7
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
	大いに満足している	だいたい満足している	どちらでもない	やや不満足である	大いに不満足である	わからない

Q47. [回答票33] あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか。

N=1837	0.1	13.7	25.0	40.8	17.5	2.9
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
	大いに満足している	だいたい満足している	どちらでもない	やや不満足である	大いに不満足である	わからない

Q48. [回答票34] あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心をもっていますか。

N=1837	18.9	62.7	15.1	2.4	0.9
	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
	非常に関心がある	多少は関心がある	ほとんど関心をもっていない	全く関心をもっていない	わからない

Q49. [回答票35] ここに6つの選挙があげてありますが、あなたがとくに関心をお持ちになる選挙を2つあげてください。(2 M.A.)

N=1837	48.2 (ア) 衆議院議員選挙	35.2 (オ) 市(区・町・村)長選挙
	19.9 (イ) 参議院議員選挙	28.1 (カ) 市(区・町・村)議会議員選挙
	29.0 (ウ) 知事選挙	6.2 どれも関心を持たない
	14.5 (エ) 県(都・道・府)議会議員選挙	1.9 わからない

Q50. [回答票36] あなたはふだん選挙の投票について、この中のどれに近い考えをもっていますか。

N=1837 58.4 (ア) 投票することは国民の義務である  
 23.4 (イ) 投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない  
 17.1 (ウ) 投票する、しないは個人の自由である  
 1.1 わからない

Q51. あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか。

N=1837	29.2	自由民主党	2.0	日本共産党	0.1	新党日本	48.3	支持政党なし
	10.2	民主党	1.6	社会民主党	0.1	新党大地	4.6	わからない
	4.0	公明党	0	国民新党	0.2	その他 ( )		

(Q52へ)

S Q. 強く支持されていますか、それほどでもありませんか。

N=865	31.2	68.2	0.6
	強く支持している	それほどでもない	わからない

[全員に]

Q52. [回答票37] 平成9年の改正で投票時間が午後6時までから午後8時までに延長されていますが、このことについて、あなたは、どうお感じになられていますか。この中からあげてください。

N=1837 81.1 (ア) 今のままでよい  
 12.0 (イ) もっと早く終了すべきである  
 4.7 (ウ) もっと遅くまで延長すべきである  
 2.1 わからない

Q53. 政治家が、選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となりますが、あなたはご存じでしたか。

N=1837	92.7	5.1	2.2
	知っていた	知らなかった	わからない

Q54. [回答票38] 政治家が、次に掲げるものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか。罰則をもって禁止されている寄附にあたると思うものをこの中でいくつでも結構ですからあげてください。(M.A.)

N=1837 77.1 (ア) お歳暮やお中元  
 65.1 (イ) 入学祝、卒業祝  
 33.7 (ウ) 政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝  
 42.0 (エ) 秘書等が代理で出席する場合の結婚祝  
 45.3 (オ) 葬式の花輪、供花  
 31.7 (カ) 政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典  
 40.9 (キ) 秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典  
 53.5 (ク) 落成式、開店祝の花輪  
 51.4 (ケ) お祭りへの寄附や差し入れ  
 51.7 (コ) 地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れ  
 59.1 (サ) 町内会の集いや旅行などの催し物への寸志や飲食物の差し入れ  
 42.2 (シ) 病気見舞  
 12.0 わからない



F 3. (学歴) あなたは学校はどこまでいらっしゃいましたか (在学中・中退は卒業とみなす)。

N=1837	15.9	47.3	18.3	16.1	1.5	0.9
	小・高小・ 新中卒	旧中・新高卒	新高専・短大・ 専修学校卒	旧高専大 ・新大卒	大学院 (修・博) 卒	わからない

F 4. (本人職業) あなたのご職業は何ですか (どんな仕事をなさっているのですか。ご自分で経営している  
らっしゃるのですか。勤めていらっしゃるのですか)。

※いわゆる主婦であっても、家の職業を手伝っている場合は家族従業の方に入れる  
(具体的に記入)

N=1837	自営者 (家族従業者を含む)		被 傭 者				そ の 他			
	3.2	10.5	3.3	17.4	11.5	9.4	1.1	20.5	22.4	0.8
	農林 漁業	商工 自由 サー ビス業	管 理 職	専 門 ・ 技 術 職	販 売 ・ 保 安 ・ サ ー ビ ス 従 事 者	運 輸 ・ 通 信 ・ 生 産 工 程 従 事 者	学 生	主 婦	無 職	わ か ら な い
	↓						→ (F 5へ)			

S Q 1. [回答票40] このように分類した場合、どれにあたりますか。

N=1014	7.2 (ア) 公 務	1.0 (ケ) 不動産業
	0.6 (イ) 鉱 業	1.0 (コ) 新聞・放送・出版業・広告業・映画制作業
	8.9 (ウ) 建設業	3.0 (サ) 情報・通信サービス業
	17.9 (エ) 製造業	9.4 (シ) 医療・福祉サービス業
	0.5 (オ) 電気・ガス・熱供給・水道業	4.8 (ス) 教育・研究サービス業
	5.0 (カ) 運輸業	1.4 (セ) 法律・会計サービス業
	19.8 (キ) 卸売・小売業・飲食店	9.9 (ソ) その他のサービス業
	3.2 (ク) 金融・保険業	6.5 その他 ( )

[全員に]

F 5. (居住年数) あなたは、この市 (区・町・村) に何年ぐらい住んでいますか。

N=1837	4.8	10.3	13.0	71.8	0.1
	3年未満	3年以上	10年以上	20年以上	わからない
	(生まれてからずっと)				

F 6. (投票所までの距離) お宅から投票所まで歩いて何分ぐらいかかりますか。

N=1837	41.6	32.3	17.6	7.2	1.3
	5分未満	10分未満	20分未満	20分以上	わからない

F 7. (家族構成) [回答票41] あなたのご家族は、このように分類した場合、どれにあたりますか。

N=1837	8.4 (ア) 1人世帯	16.5 (エ) 三世帯世帯 (親と子と孫)
	23.7 (イ) 一世帯世帯 (夫婦だけ)	1.0 (オ) その他の世帯 ( )
	50.1 (ウ) 二世帯世帯 (親と子)	0.3 わからない

F 8. (住居) [回答票42] 現在のお住まいは、このように分類した場合、どれにあたりますか。

N=1837	80.2	(ア) 自分の家 (一戸建て)	
	2.8	(イ) 自分の家 (共同住宅、分譲マンションなど)	
	2.3	(ウ) 公営、公団、公社の賃貸住宅	
	12.7	(エ) 民間の賃貸住宅 (貸家、アパート、マンションなどすべてを含む)	
	1.4	(オ) 勤め先の給与住宅 (社宅、寮、公務員住宅など)	
	0.5	(カ) その他 ( )	
	0.1	わからない	

F 9. (愛着度) [回答票43] あなたは、この市 (区・町・村) にどの程度愛着を感じていますか。この中からお答えください。

N=1837	33.8	(ア) 非常に愛着を感じている	6.0	(エ) あまり愛着を感じていない
	38.3	(イ) かなり愛着を感じている	0.6	(オ) まったく愛着はない
	20.7	(ウ) どちらともいえない	0.7	わからない

F 10. (所属団体) [回答票44] あなたは、このような団体に加入していますか。あればいくつでも結構ですからあげてください。(M.A.)

N=1837	49.0	(ア) 自治会	2.9	(ケ) 宗教団体
	6.8	(イ) 婦人会	15.5	(コ) 同好会・趣味のグループ
	0.9	(ウ) 青年団・消防団	1.9	(サ) 住民運動・消費者運動・市民運動の団体
	9.3	(エ) 老人クラブ (会)	2.3	(シ) NPO・地域づくり団体
	8.9	(オ) P T A	1.6	その他 ( )
	3.7	(カ) 農協その他の農林漁業団体	31.4	どれにも加入していない
	3.6	(キ) 労働組合	0.5	わからない
	2.7	(ク) 商工業関係の経済団体		

(長い間どうもありがとうございました)

## IV 調査結果の概要

### 1 はじめに

平成19年4月8日に都道府県と政令指定都市において、また4月22日には市区町村において、第16回統一地方選挙(以下、統一地方選挙を「統一選」という)が実施された<sup>1</sup>。

昭和22年4月の第1回地方選挙では、戦後の新しい地方自治制度の発足に伴い、全ての地方公共団体の長と議員の選挙が全国一斉に実施された。その後、市町村の合併、長の死亡や辞職、議会の解散などにより、統一選での選挙の実施率(統一率)は下がってきてはいるが、今回も、全国1874の地方公共団体のうち14.83%に当たる278団体で首長選挙が、44.61%に当たる836団体で議員選挙が実施された<sup>2</sup>。

本報告書は、統一選直後<sup>3</sup>に財団法人明るい選挙推進協会が実施した全国世論調査のデータに基づいて、今回の統一選における有権者の政治行動の一端を分析したものである。より具体的には、今回の統一選における、有権者の選挙関心度、投票・棄権の選択率及びその理由、投票決定時期、政党支持と投票行動、選挙関連情報源、選挙のあり方、政治一般の評価、明るい選挙推進諸活動、などについての分析を行った。

---

<sup>1</sup> 都道府県知事選挙は13都道府県(北海道・岩手県・東京都・神奈川県・福井県・三重県・奈良県・鳥取県・高根県・徳島県・福岡県・佐賀県・大分県)、都道府県議会議員選挙は茨城県・東京都・沖縄県を除く44道府県、政令指定都市の市長選挙は札幌市・静岡市・浜松市・広島市の4市、市議会議員選挙は15市(札幌市・仙台市・さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・新潟市・浜松市・名古屋市・京都市・大阪市・堺市・神戸市・広島市・福岡市)、市区町村長選挙は262地方公共団体、市区町村議会議員選挙は778団体で実施された。出典:「平成19年度統一選執行予定団体に関する調」

([http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070406\\_3.pdf](http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070406_3.pdf))

<sup>2</sup> この他に、広島市長選挙及び市議会議員選挙が、公職選挙法第34条の2(90日特例)の適用により、統一選の期日(平成19年4月8日)と同日に執行された。

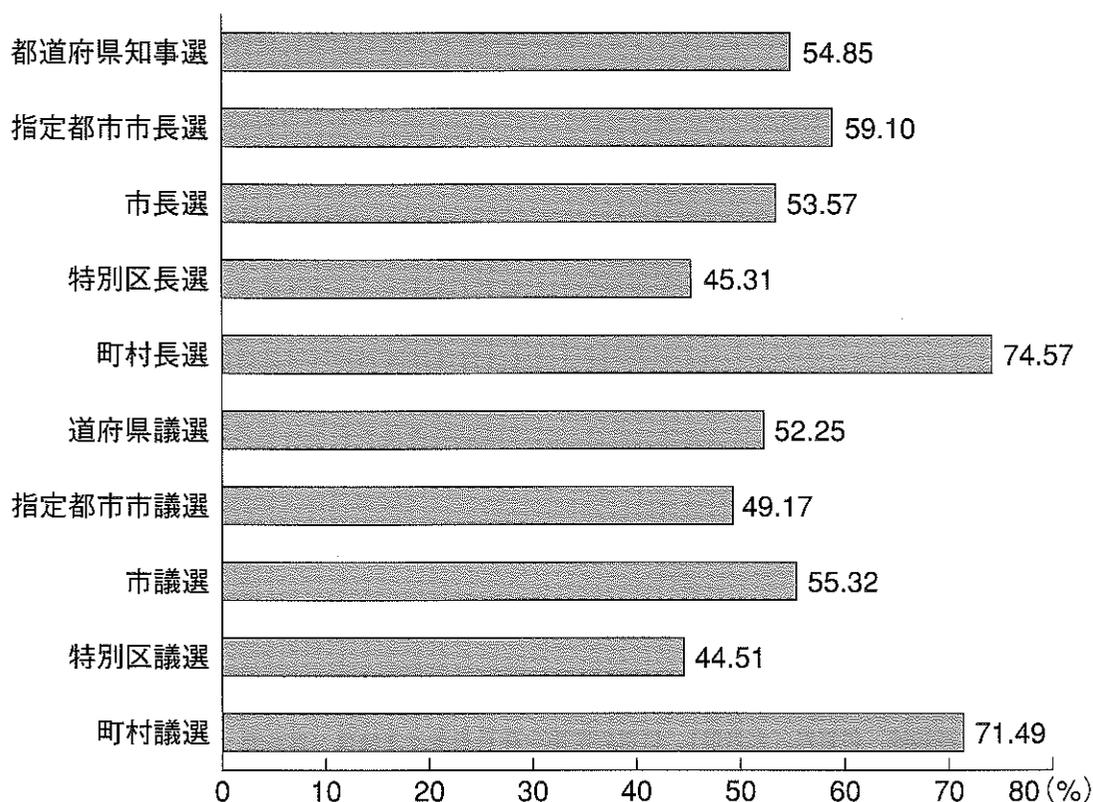
<sup>3</sup> 調査は5月2日から6月3日にかけて実施された。

## 2 選挙結果から

### (1) 投票率

今回の統一選における投票率を選挙の種類別に見てみよう(図1参照)。ここでいう投票率とは、総務省が発表している選挙結果の数字<sup>4</sup>であり、世論調査の結果から得たものではない。今回の統一選で投票率が特に高かったのは町村長選と町村議選で、それぞれ74.57%と71.49%であった。逆に低かったのは、特別区議選(44.51%)、特別区長選(45.31%)、指定都市市議選(49.17%)で、50%にも達していない。その他の選挙は50%台で、知事選54.85%、指定都市市長選59.10%、市長選挙53.57%、道府県議選52.25%、市議選55.32%となっている。町村長選と町村議選の投票率が高いことから、都市化があまり進んでいないところほど投票率が高いという傾向が読み取れよう。

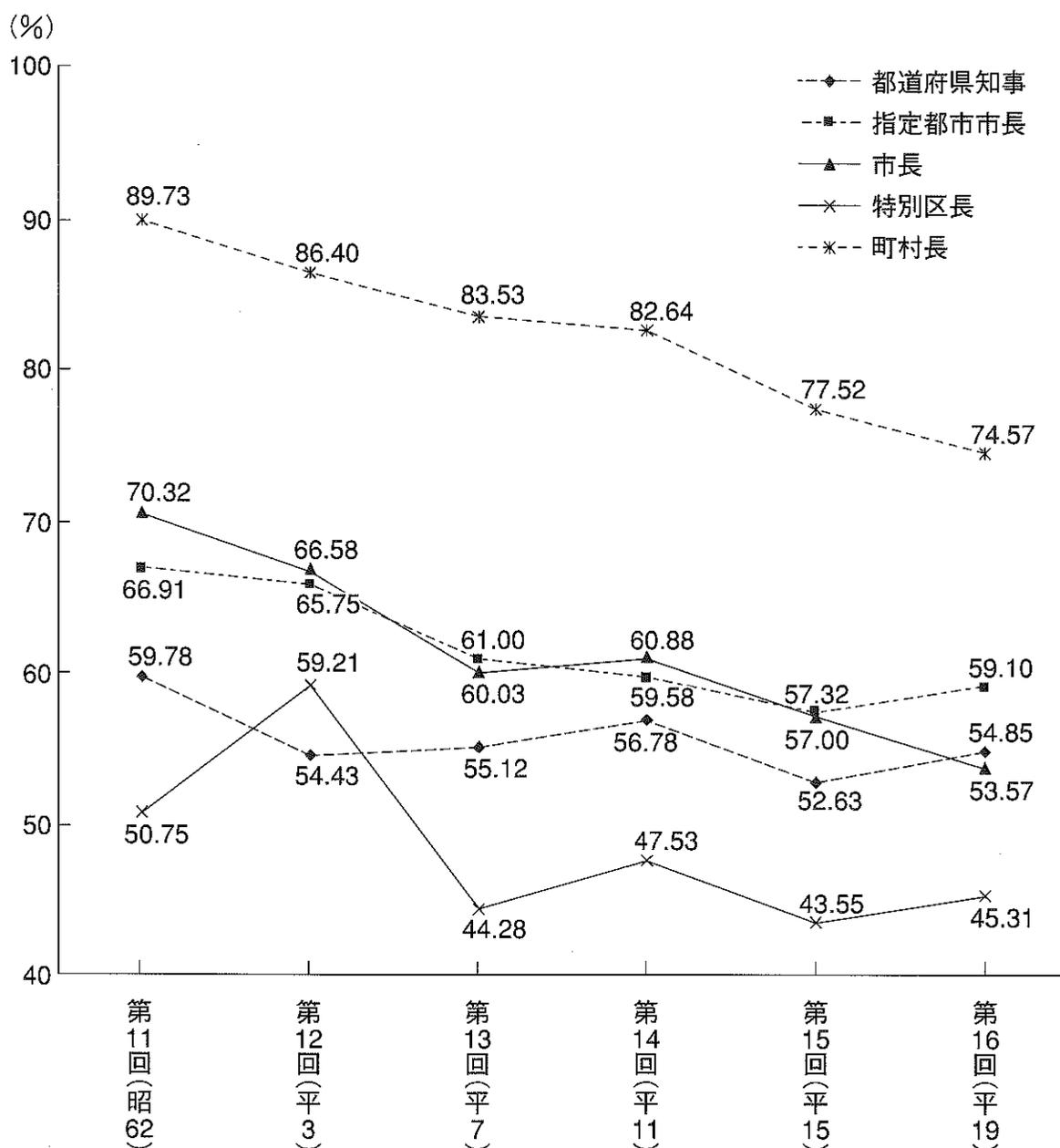
図1 第16回統一選の投票率



<sup>4</sup> データは「平成19年4月8日/4月22日施行 統一地方選挙結果の概要(速報)」  
([http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/data/chiohou16/pdf/070408\\_1.pdf](http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/data/chiohou16/pdf/070408_1.pdf))  
([http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/data/chiohou16/pdf/070422\\_1.pdf](http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/data/chiohou16/pdf/070422_1.pdf))に基づく。

次に、過去の統一選の投票率との比較を試みよう。煩雑になるのを避けるために、**図2**では議会選挙の投票率は省いてある。この図を見ると、全体的に投票率が下降傾向にあることがわかる。

図2 投票率の推移(首長選挙)



最も投票率が高い町村長選でも、第11回統一選(昭62)の89.73%から次第に下がり、今回は74.57%であった。市長選にも同様の傾向が見られ、第11回では70.32%であったのが、今回53.57%まで低下した。他方、知事選・指定都市市長選・特別区長選は、市長選や町村長選に比べ、低下の幅が小さい。第11回と今回との投票率の差は、知事選がマイナス4.93ポイント、指定都市市長選がマイナス7.81ポイント、特別区長選がマイナス5.44ポイントとなっている。

## (2) 選挙競争率

今回の統一選における平均競争率を、選挙の種類別に確認する。これも総務省発表のデータ<sup>5</sup>をまとめたものである(表1参照)。競争率は、立候補者数を改選定数で割った値<sup>6</sup>である。競争率が高かったのは、知事選の3.38と指定都市市長選の3.00、特別区長選の2.92である。逆に競争率が低かったのは、町村議選(1.19)、市議選(1.25)、特別区議選(1.32)、指定都市市議選(1.41)、道府県議選(1.58)であり、競争率が2.00にも達していない。このように表1からは、議員選の競争率が低く、首長選の競争率が高いということが明瞭に読み取れる。

表1 選挙競争率・無投票当選率

	競争率	改選定数	立候補者数	無投票当選率(%)
都道府県知事	3.38	13	44	0.00
指定都市市長	3.00	4	12	0.00
特別区長	2.92	13	38	0.00
市長	2.68	96	225	19.79
町村長	2.19	156	270	38.46
道府県議会議員	1.58	2544	3773	16.35
指定都市市議会議員	1.41	984	1380	1.32
特別区議会議員	1.32	841	1110	0.00
市議会議員	1.25	8035	9976	1.98
町村議会議員	1.19	5637	6556	13.13

5 脚注4参照。なお、宮城県加美町では、町長選挙の結果、いずれの候補者も公職選挙法第95条第1項第4号に規定する得票数(有効投票総数の4分の1以上の得票)に届かなかったため、当選者がいない。

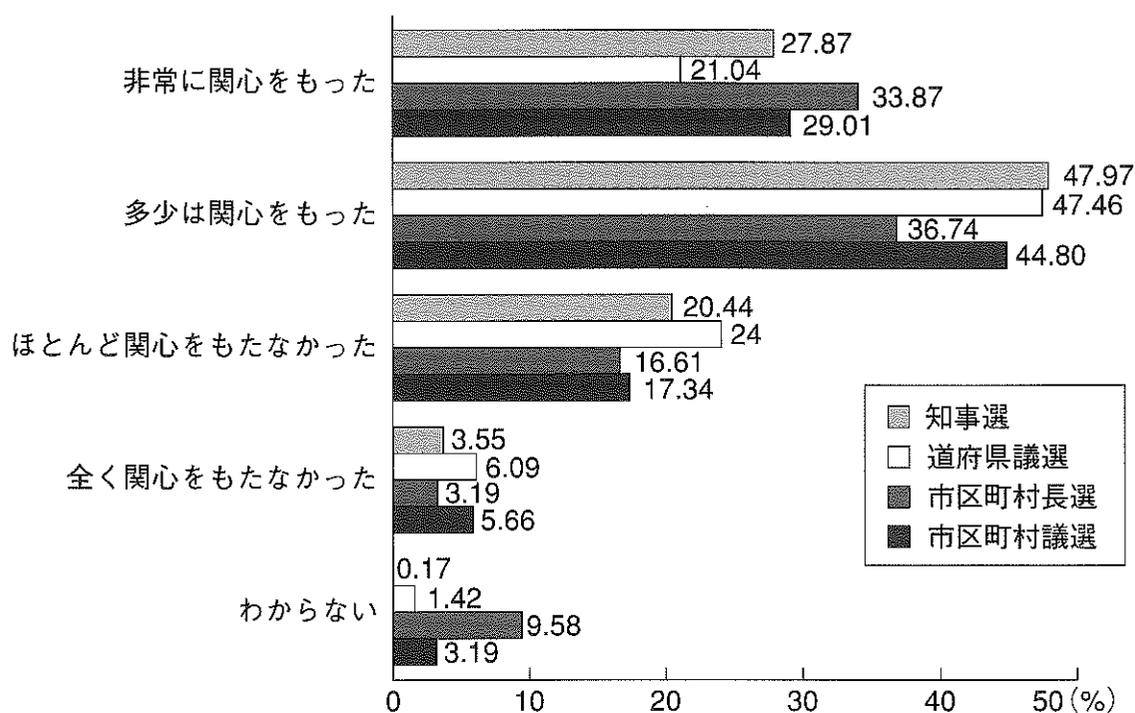
6 無投票当選者がいた場合は、それを除いて計算した。

一方、「無投票当選率」という観点からは、道府県議選・市長選・町村長選・町村議選の競争率が低いとも言える。表1によると、町村長が改選を迎えた156町村のうち38.46%(60町村)では、候補者が1人しかおらず、無投票で新町村長が決まった。また、道府県議員の16.35%及び町村議員の13.13%も、改選定数と立候補者数が同数のため、無投票で当選した。

### 3 選挙関心度

本調査には、統一選への関心度を尋ねる質問が5つ<sup>7</sup>含まれるので、それぞれの回答を見ていこう(図3参照)。まず、その選挙が行われた地域の対象者のみに対して行われた、選挙の種類別の関心度である。知事選は、27.87%が「非常に関心をもった」、47.97%が「多少は関心をもった」と答えており、合計で75.84%になる。道府県議選に関しては、「非常に関心をもった」が21.04%、「多少は関心をもった」が47.46%で、合計で68.50%となっている。知事選に比べ、「非常に関心をもった」人が少ない。市区町村長選では、「非常に関心をもった」回答者の割合が33.87%と、他の選挙よりも高い。「多少は関心をもった」は36.74%であり、「非常に関心をもった」と合わせると、70.61%となる。その一方で、「わからない」とした回答者の割合が9.58%と、他の選挙に比べ著しく高いところの特徴がある。市区町村議選では、29.01%が「非常に関心をもった」、44.80%が「多少は関心をもった」と答えており、合計で73.81%の回答者が関心を示している。「非常に関心をもった」と答えた割合に関して、都道府県レベルの選挙と市区町村レベルの選挙を比較してみると、首長選・議員選のいずれも、都道府県レベルに比べ市区町村レベルの方が、関心度が高いことがわかる。

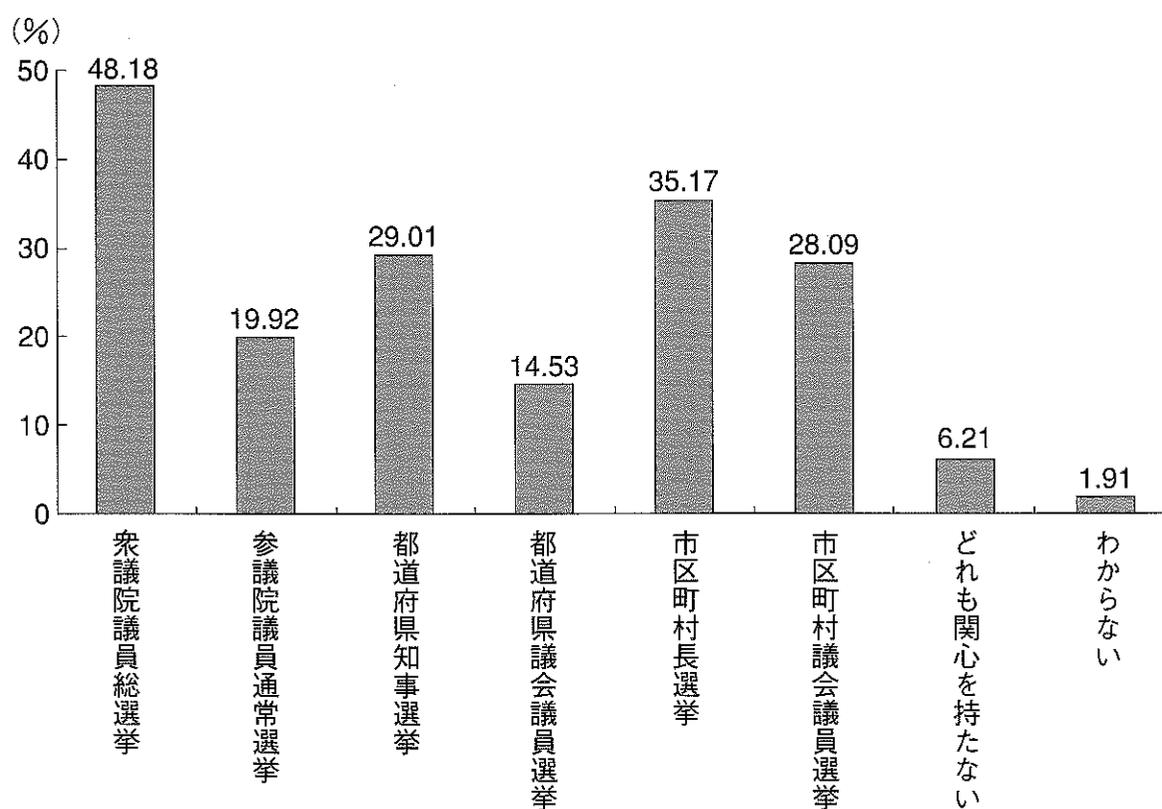
図3 選挙関心度



<sup>7</sup> 今回は、「今回の統一選について、あなた自身は、どれくらい関心をもちましたか」という、調査対象者全員に対する質問は行われなかった。

次に、国政選挙も含めて、どの選挙に対して最も関心を持っているのかを見てみよう。本調査では、「ここに6つの選挙があげてありますが、あなたがとくに関心をお持ちになる選挙を2つあげてください」という質問を行っている。その回答は図4のとおりである。同じ国政レベルでも、衆議院議員総選挙に関心を持つ人が約半数(48.18%)いるのとは対照的に、参議院議員通常選挙に言及した人は2割にも満たない(19.92%)というのは非常に興味深い。地方選挙に関しては、都道府県レベルに比べ市区町村レベルの選挙の関心が高く、また、議員選に比べ首長選の関心が高いという傾向を読み取れる<sup>8</sup>。

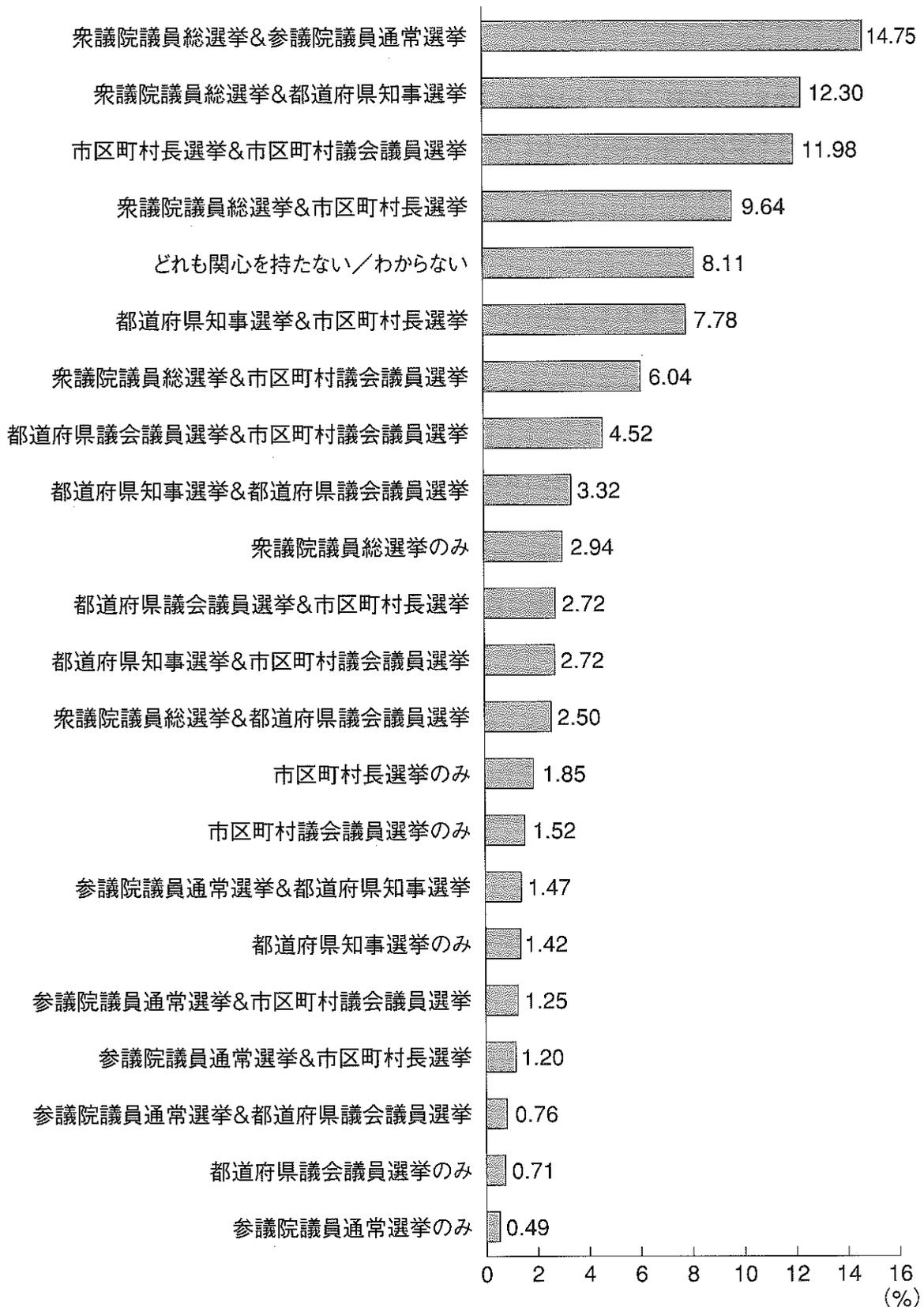
図4 選挙関心度(全回答者、6種類の中から2つを選択)



<sup>8</sup> 知事選挙が29.01%、道府県議選が14.53%、市区町村長選が35.17%、市区町村議選が28.09%であった。

同じ質問について、どの2つの選挙に言及したかをまとめたのが図5である。最も多いのは国政レベルの2つの選挙(衆議院議員総選挙、参議院議員通常選挙)を選ぶというパターンであるが、それでも全回答者の14.75%が選択したに過ぎない。以下、衆議院議員総選挙と都道府県知事選挙が12.30%、市区町村長選挙と市区町村議会議員選挙が11.98%と続く。全体として、有権者ごとに多様な関心を示していることがうかがえる。なお、どの選挙にも関心を示さない、あるいはこの質問に「わからない」と回答した人が8.11%もいることは注目に値しよう。

図5 選挙関心度(全回答者、6種類の中からどの2つを選択したか)



## 4 投票—棄権の選択

### (1) 社会的属性による相違

次に、実施率が最も高かった道府県議選に焦点を当て、投票するか棄権するかの選択に対する社会的属性の影響について検討する(表2参照)<sup>9</sup>。なお、どれほど質の高い世論調査でも、「投票した」と回答する割合は、実際の投票率よりもいくらか高い傾向があることはよく知られている。今回の道府県議選では、選挙が実施された地域の回答者の66.73%が投票したと回答しているが、実際の投票率は52.25%<sup>10</sup>だったので、約15%の乖離がある。以下の結果の解釈に際しては、この点に留意する必要がある<sup>11</sup>。

まず、年齢別の傾向を見ると、20歳代の被調査者の投票率が最も低く50.91%となっている<sup>12</sup>。30歳代で64.88%、40歳代で69.96%、50歳代で77.03%、60歳代で87.65%、70歳以上で88.16%と、年齢が上昇するごとに投票率も高まるという傾向が顕著に見られる。

性別に関しては、男性の77.86%、女性の76.16%が「投票した」と回答している。男性の方が若干高いが、統計的に有意な差ではない。

次に、最終学歴の影響を、年齢別に見ていこう。時代によって進学率が大幅に異なるので、最終学歴の影響は、年齢別に見ることが大切である。ここでは、「20歳以上43歳未満」「43歳以上63歳未満」「63歳以上」の3つに分類する<sup>13</sup>。まず、43歳未満の回答者の投票率は、中学校・高校卒が55.21%、高専・短大・専修学校卒が67.29%、大学・大学院卒が69.23%となっており、高学歴の人ほど投票率が高いという結果が出ている。政治・社会について学校で学んだ知識量の違いや、学歴の差による社会進出度の違いから、政治や選挙に対する意識に差が生じているのかもしれない。他方、43歳以上63歳未満、及び63歳以上という2つのカテゴリーでは、最終学歴による調査上の投票率の違いは小さいと言えるだろう<sup>14</sup>。これは、年齢とともに投票参加率が高くなるので、年齢を重ねるにつれ学歴の影響が小さくなっていくことを意味しているのかもしれない。

職業と投票率の関係を見ると、第一次産業従事者(農林漁業従事者)(90.91%)、公務員(81.13%)の回答者の間で投票率が比較的高いことがわかる。第一次産業従事者

9 表2からも明らかなように、他の選挙についても道府県議選と同様の傾向を確認できる。

10 データの出典は脚注4参照。

11 ちなみに、世論調査に協力的な人ほど投票率が高いという傾向に、その主たる理由はあると思われる。

12 以下の分析では、無投票当選となった地域の回答者を除外して調査上の投票率を計算している。

13 戦前・戦中世代と戦後世代とを区別し、また戦後世代を2つに区分するために、「20歳以上43歳未満」「43歳以上63歳未満」「63歳以上」という3つのカテゴリーに分類した。

14 「43歳以上63歳未満」「63歳以上」のいずれについても、学歴による調査上の投票率の差は統計的に有意ではない。

表2 社会的属性と投票率

	知事選	道府県議選	市区町村長選	市区町村議選
<u>年齢</u>				
20歳代	62.96%	50.91%	45.00%	46.75%
30歳代	68.35	64.88	62.86	59.86
40歳代	78.00	69.96	70.45	77.01
50歳代	82.11	77.03	82.69	78.11
60歳代	88.03	87.65	91.67	90.68
70歳以上	89.08	88.16	90.20	88.07
<u>性別</u>				
男性	81.07	77.86	79.46	78.69
女性	79.81	76.16	78.00	77.35
<u>学歴(20歳以上43歳未満)</u>				
中学校・高校卒	61.84	55.21	50.00	53.85
高専・短大・専修学校卒	70.83	67.29	64.00	55.81
大学・大学院卒	82.93	69.23	65.00	65.85
<u>学歴(43歳以上63歳未満)</u>				
中学校・高校卒	77.86	74.77	78.18	78.40
高専・短大・専修学校卒	84.09	75.00	80.77	84.71
大学・大学院卒	82.69	74.51	88.89	78.16
<u>学歴(63歳以上)</u>				
旧制小学校・高等小学校・新制中学校・旧制中学校・新制高校卒	88.00	88.26	89.86	89.88
新制高専・短大・専修学校卒	93.75	94.87	***	89.47
旧制高専・旧制大学・新制大学・大学院卒	96.15	95.45	100.00	90.24
<u>本人職業</u>				
第一次産業	88.24	90.91	***	96.55
第二次産業	70.51	69.30	71.43	75.58
第三次産業	77.11	72.52	69.89	71.47
公務	93.94	81.13	92.31	82.05
主婦	81.45	78.77	90.38	80.00
無職	87.80	85.80	81.82	86.38

表2 社会的属性と投票率(続き)

	知事選	道府県議選	市区町村長選	市区町村議選
<u>居住年数</u>				
3年未満	59.26%	50.00%	58.82%	61.36%
3年以上	69.74	62.66	52.63	61.74
10年以上	79.59	70.49	72.50	72.06
20年以上	84.14	81.90	84.41	82.54
<u>所属団体</u>				
自治会	84.46	79.94	83.01	83.99
婦人会	85.37	83.17	94.12	87.93
青年団・消防団	***	86.67	***	90.91
老人クラブ(会)	91.89	90.71	94.44	96.34
P T A	86.79	68.89	90.00	77.17
農協その他の農林漁業団体	92.31	93.44	***	93.33
労働組合	71.43	67.80	***	71.43
商工業関係の経済団体	***	86.11	***	85.00
宗教団体	82.61	97.44	***	96.55
同好会・趣味のグループ	90.48	85.12	90.70	90.79
住民運動・消費者運動・市民運動の団体	100.00	96.67	***	94.12
N P O・地域づくり団体	92.86	96.67	***	87.50
どれにも加入していない	71.14	69.79	66.67	65.37
<u>所属団体数</u>				
0	71.14	69.79	66.67	65.37
1	83.26	77.89	81.13	80.97
2	88.00	83.40	82.35	85.93
3以上	88.46	85.91	100.00	93.18

\*\*\*はケース数10未満を指す。

は、平均年齢が高いこと、国の農林漁業保護政策との関連性が強いことなどにより、高い投票率を示していると思われる。また公務員は、日々行政に関係しているために政治・選挙への関心が強く、投票率が高いと考えられる。逆に、第二次産業従事者(69.30%)、第三次産業従事者(72.52%)の投票率が比較的低い。無職の人の調査上の投票率が85.80%と高いのは、高齢の有権者を多く含んでいるからだと思われる。

居住年数の影響を見てみよう。本調査では、「あなたは、この市(区・町・村)に何年ぐらい住んでいますか」という質問を行っている。その回答と投票-棄権の選択との関連を分析したところ、居住年数が長いほど、調査上の投票率が高いという傾向が確認できた。居住年数が3年未満の人は半数しか投票に行かなかったが、3年以上の人の62.66%、10年以上の人の70.49%、20年以上の人の81.90%が投票に行ったと回答している。引越しなどによって特定地域での居住年数が短いと、その地域の情報が足りないということや社会との関係が薄いということのために、棄権を選択する確率が高まると推論できる。

最後に、所属団体の影響を見ておこう。所属している人の調査上の投票率が90%以上の団体は、宗教団体(97.44%)、住民運動・消費者運動・市民運動の団体(96.67%)、NPO・地域づくり団体(96.67%)、農協その他の農林漁業団体(93.44%)、老人クラブ(会)(90.71%)の5種類である。ここで注目すべきは、「どれにも加入していない」有権者の動向で、投票率は69.79%と低い。また、所属団体数が多くなるほど投票率も高くなる傾向が見られる。このことから、団体に所属することは、社会や政治に関する情報を得るきっかけとなり、それが投票に行く気持ちを強くすると考えられる。

## (2) 社会・政治意識の影響

社会や政治に対する意識が、投票-棄権の選択にどのような影響を与えるのかを、地元への愛着度、生活満足度、政治満足度、投票義務感、政治関心度、支持政党強度に焦点をあてて見ることにしよう(表3参照)<sup>15</sup>。

本調査は、「あなたは、この市(区・町・村)にどの程度愛着を感じていますか」という質問を行い、愛着度を測定している。「あまり」または「まったく」愛着を感じていない回答者の投票率は最も低く、66.67%である。愛着度が高くなるにつれ投票率も上昇し、「非常に」愛着を感じている有権者の投票率は82.58%となっている。明らかに、地元愛着度は、投票-棄権の選択に影響している。

生活満足度と投票-棄権の選択の間には、それ程強いとは言えないまでも、関連が認められる。「あなたは、現在のご自分の生活にどの程度満足していますか」とい

<sup>15</sup> 本文中の表記は道府県議選の結果に基づくが、表3からも明らかとおり、他の選挙についても同様の傾向を確認できる。

表3 社会・政治意識と投票率

	知事選	道府県議選	市区町村長選	市区町村議選
<u>愛着度</u>				
非常に愛着を感じている	85.37%	82.58%	86.00%	84.74%
かなり愛着を感じている	81.66	78.07	80.95	79.61
どちらともいえない	75.89	70.27	69.49	66.98
あまり愛着を感じていない/まったく愛着はない	65.12	66.67	61.11	65.57
<u>生活満足度</u>				
大いに満足している	87.50	84.21	88.24	84.44
だいたい満足している	84.42	77.88	77.60	79.53
どちらでもない	72.09	76.14	75.93	76.81
やや不満足である	78.22	76.07	86.79	77.66
大いに不満足である	75.00	71.64	53.85	61.70
<u>政治満足度</u>				
大いに/だいたい満足している	88.89	82.50	75.00	80.14
どちらでもない	74.10	74.11	78.69	79.62
やや不満足である	80.24	77.74	80.36	77.93
大いに不満足である	84.62	75.89	78.43	75.13
<u>投票義務感</u>				
国民の義務	87.12	85.75	89.03	87.54
国民の権利であるが、棄権すべきではない	85.71	81.23	80.00	79.92
個人の自由	54.00	45.59	45.45	47.09
<u>政治関心度</u>				
非常に関心がある	93.04	87.87	87.50	87.88
多少は関心がある	82.11	80.35	82.93	80.53
ほとんど/全く関心をもっていない	61.54	55.68	57.14	57.40
<u>政党支持強度</u>				
強い支持	87.65	91.51	90.24	90.85
弱い支持	83.89	84.46	88.51	85.26
支持政党なし	76.74	68.15	68.66	69.86

う問いに対する回答が「大いに満足」の有権者の投票率は84.21%、「だいたい満足」は77.88%、「どちらでもない」は76.14%、「やや不満足」は76.07%、「大いに不満足」は71.64%と、生活満足度が低下するにつれ投票率も低下している。生活に不満足な有権者は、社会からの疎外感が強いために、あまり投票に行かないのだろうと考えられる<sup>16</sup>。

一方、「あなたは、現在の政治に対してどの程度満足していますか」という政治満足度に関しては、「大いに／だいたい満足」と回答した人との投票率が82.50%、「どちらでもない」は74.11%、「やや不満足」は77.74%、「大いに不満足」は75.89%と、投票－棄権の選択との間に線形の明瞭な関係は見られない。

本調査では、投票義務感について次のような質問をしている。「あなたはふだん選挙の投票について、この中のどれに近い考えをもっていますか。(ア)投票することは国民の義務である、(イ)投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない、(ウ)投票する、しないは個人の自由である」。この質問に対して、「国民の義務」と答えた有権者の85.75%、「国民の権利」と答えた有権者の81.23%、「個人の自由」と答えた有権者の45.59%が投票している。明らかに、投票義務感が投票するか棄権するかを選択に影響している。「個人の自由」と考えている人が「国民の権利」あるいは「国民の義務」と考えるようになれば、投票率は上昇するものと思われる。

政治関心度と投票率の関係を次に見てみよう。本調査には、「あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心をもっていますか」という質問が含まれる。その回答と投票－棄権の選択との関係を見てみると、「非常に関心がある」人の87.87%、「多少は関心がある」人の80.35%、「ほとんど／全く関心をもっていない」人の55.68%が投票しており、政治関心度と投票傾向には正の相関がある。政治関心度を高める工夫ができれば、投票率を上昇させることができるであろうと推測される。

本調査では、「あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか」と質問し、さらに支持政党がある人に対しては、「強く支持されていますか、それほどでもありませんか」と尋ねている。この2つの質問から、回答者を、(1)強い支持、(2)弱い支持、(3)支持政党なしという3つに分類した。支持強度別の投票率を見てみると、強い支持の91.51%、弱い支持の84.46%、支持政党なしの68.15%が投票している。このことから、支持強度による差はさほど大きくはなく、むしろ支持政党があるかないかによって、投票するか棄権するかが大きく違ってくるのがわかる。これは、政党支持なし層の増加が投票率の低下につながることを物語っている。

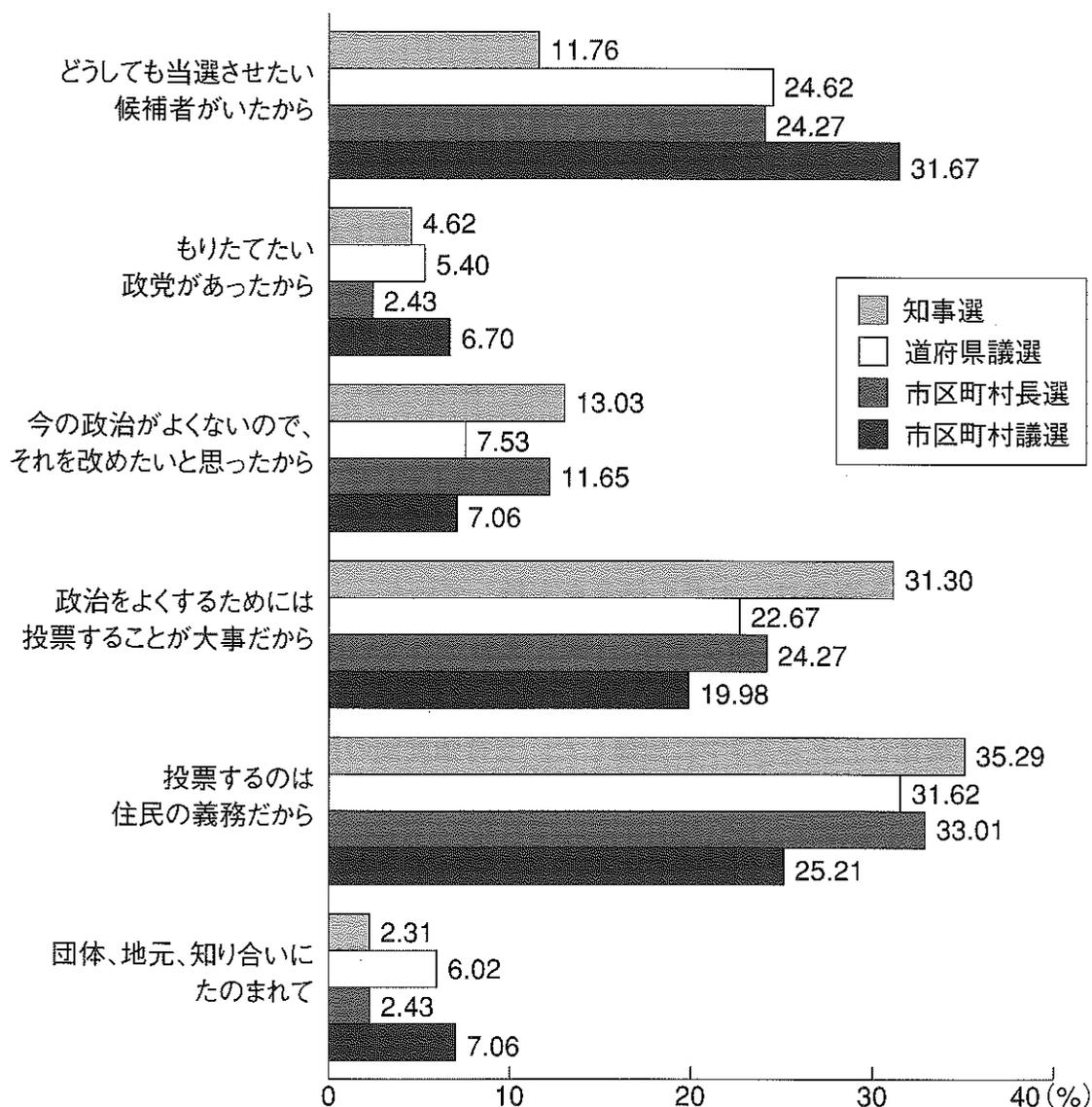
<sup>16</sup> 表3を見ると、知事選挙・市区町村長選では明瞭な関係を確認できないが、これは該当ケース数が少ないためではないかと思われる。

## 5 投票・棄権の理由、投票決定時期

本調査では、知事選、道府県議選、市区町村長選、市区町村議選のそれぞれについて、「〇〇選挙で投票したのはどういう気持ちからですか」という質問を行い、その答えとして6項目の中から1つだけ選んでもらっている。その回答をグラフにまとめたのが図6である。

知事選での投票理由は、「投票するのは住民の義務だから」(35.29%)が最も多く、「政治をよくするためには投票することが大事だから」の31.30%が続く。道府県議選では、「投票するのは住民の義務だから」の言及率が最も高く(31.62%)、「どうしても当選させたい候補者がいたから」が次に高い(24.62%)。市区町村長選でも、「投票す

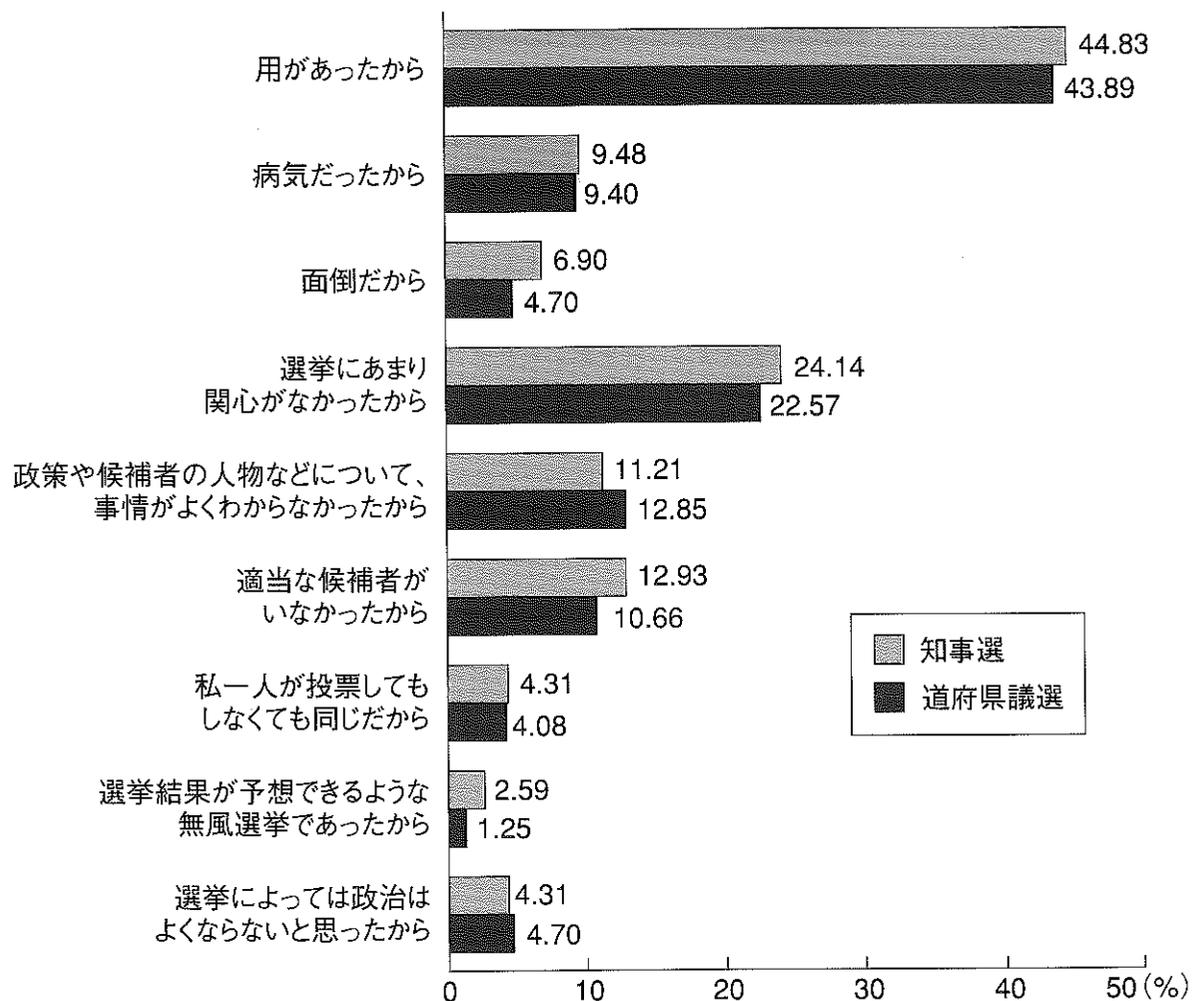
図6 投票理由



るのは住民の義務だから」を挙げた人が最も多く(33.01%)、「どうしても当選させたい候補者がいたから」と「政治をよくするためには投票することが大事だから」の言及率も高い(ともに24.27%)。市区町村議選では、他の3つの選挙とは異なり「投票するのは住民の義務だから」の言及率は2番目(25.21%)で、最も高かったのは「どうしても当選させたい候補者がいたから」(31.67%)であった。このように、「投票するのは住民の義務だから」という理由は、どの選挙においても言及率の上位2つに入っている。また、首長選挙においては「政治をよくするためには投票することが大事だから」を挙げる人が多く、議会選挙においては、「どうしても当選させたい候補者がいたから」という理由が上位に入るという傾向が見られる。

次に、棄権した理由を選挙の種類別に見たのが図7である。これは、知事選と道府県議選の棄権者に、「〇〇選挙で、あなたが、投票しなかったのはなぜですか」と尋

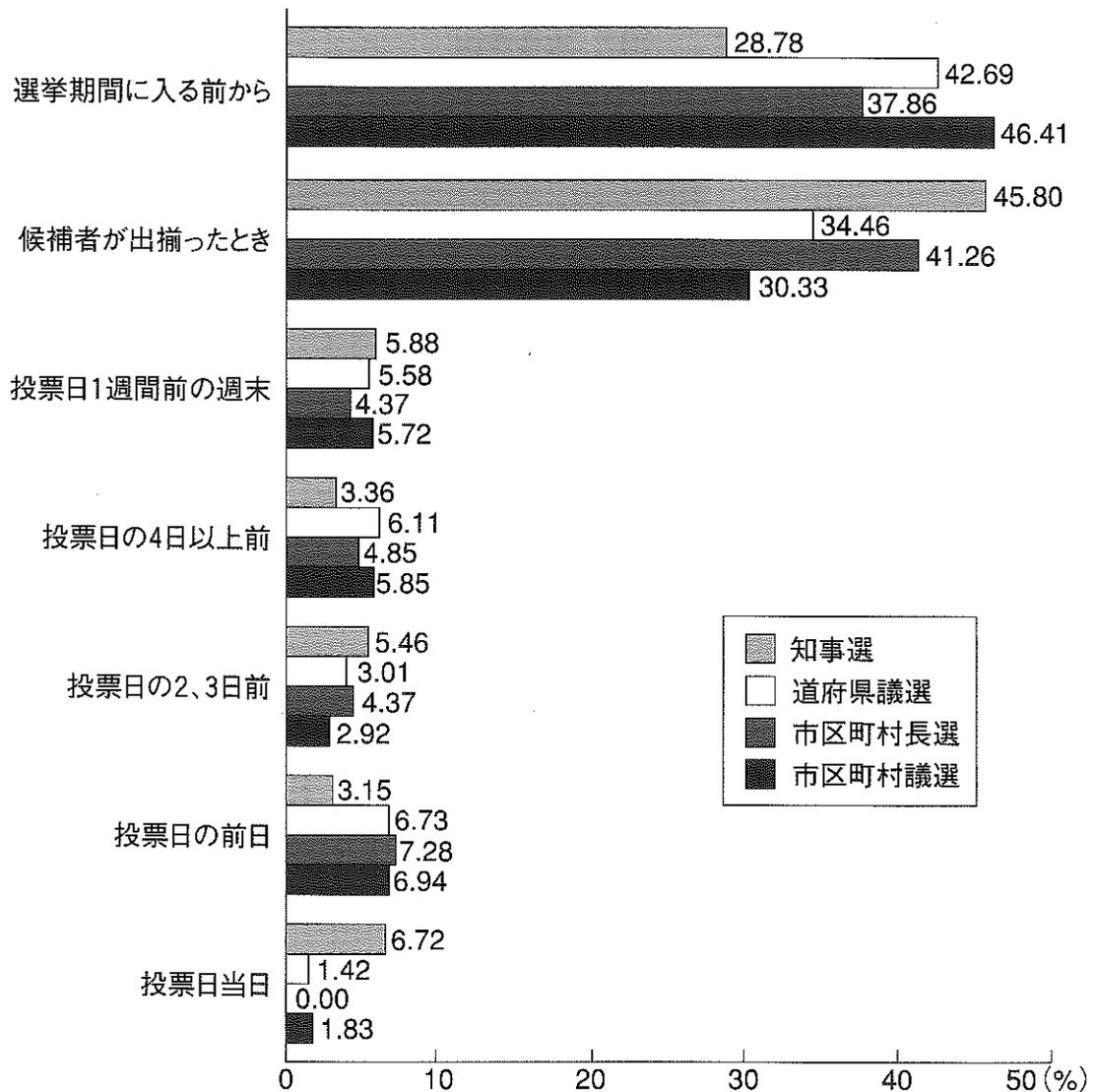
図7 棄権理由



ね、10項目から当てはまるもの全てを選んでもらった結果をまとめたものである。最も選択率が高かった理由は「用があったから」で、どちらの選挙においても、40%以上の棄権者がこれを棄権の理由として挙げている。次に多いのが「選挙にあまり関心がなかったから」で、20%強の棄権者がこれを選択している。以上のことから、棄権者の多くは、忙しく、また選挙にあまり関心がないため棄権するということが見て取れる。

本調査には、特定の候補者に投票するのを決めたのはいつ頃であったのかを問う項目がある。その回答を、選挙の種類ごとに見たものが図8である。これを見ると、どの選挙についても4分の3の投票者は「候補者が出揃ったとき」には誰に投票するか決

図8 投票決定時期



めているということがわかる。ただ、議員選挙に関しては「選挙期間に入る前から」投票する候補者を決めている人が多いのに対し、首長選挙に関しては「候補者が出揃ったとき」に投票行動を決定する人が多いという傾向も見られ、興味深い。また知事選に関しては、「投票日当日」になってようやく誰に投票するか決める人が6.72%もいる。

## 6 政党支持と投票

### (1) 政党支持

有権者の政党支持は、実際の投票行動と密接に結びついており、投票行動決定の心理的要因として重要な意味を持つ。本調査で測定した政党支持の分析に関して留意すべき点は、「あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか」と「ふだん」という表現を入れることで、より長期的な政党支持態度を聞いていることである。その点、新聞社などの世論調査で「いま、あなたは何党を支持していますか」と聞くのとは少し意味合いが異なる。

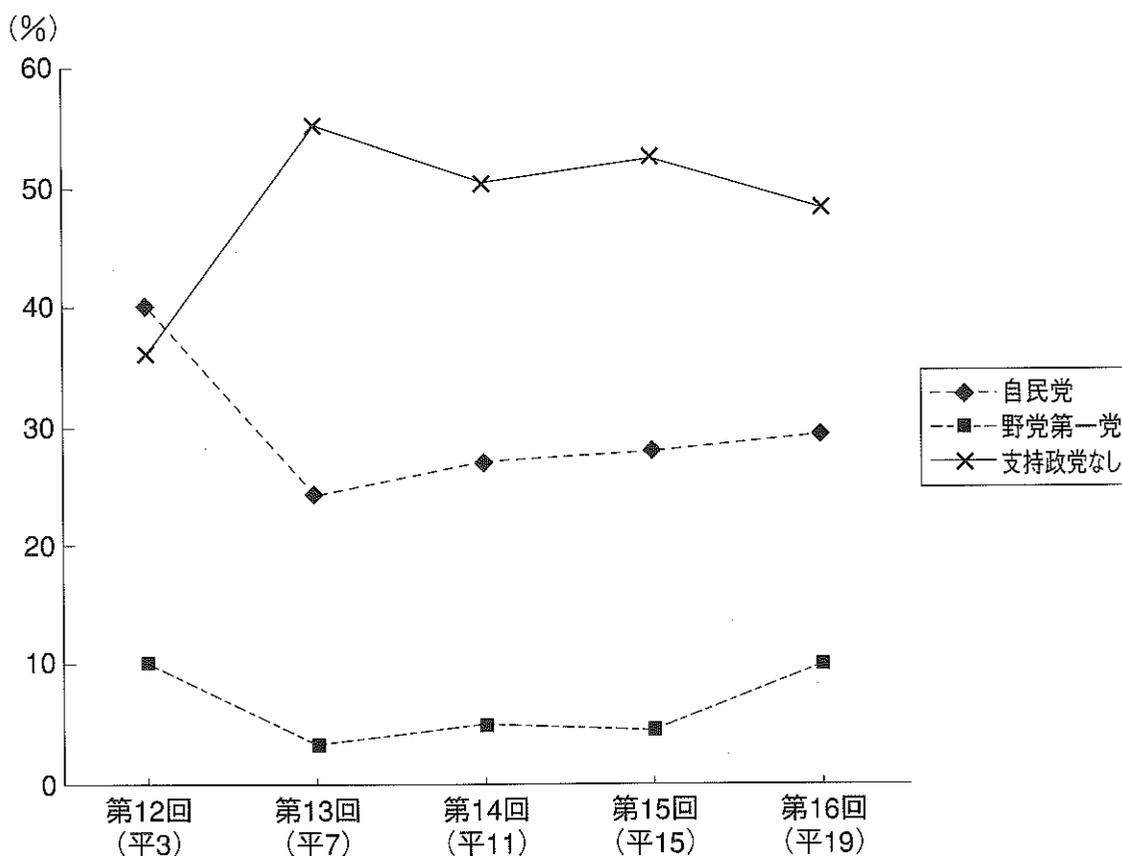
平成5年の非自民八党派連立政権の成立以来、日本の政党システムが大きく変動していることが、表4・図9の政党支持のデータから見て取れる。第一に挙げられるのは、自民党の支持基盤の縮小である。第12回(平3)と比べると、自民党が10%程度支持率を減らしていることがわかる。第二に、民主党の出現と社会党(現社民党)の低迷である。社会党は、民主党(その前は新進党)の出現により、第一野党の地位を民主党に奪われたのはおろか、支持率自体が2%を切るという状況にある。逆に民主党は、今回の統一選には第14回(平11)・第15回(平15)に比べ支持率を倍増させ、第12回当時野党第一党であった社会党と同程度の支持を得るに至っている。第三に、公明党の支持率の安定性である。平成3年と比べても支持率は安定しており、支持率の揺らぎが

表4 政党支持率の推移

	第12回 (平3)	第13回 (平7)	第14回 (平11)	第15回 (平15)	第16回 (平19)
自民党	40.0%	24.3%	26.9%	27.9%	29.2%
民主党	—	—	5.0	4.5	10.2
公明党	3.9	3.1	4.2	3.8	4.0
共産党	2.0	1.7	3.1	2.4	2.0
自由党	—	—	1.1	0.7	—
社民(社会)党	10.2	5.8	3.2	1.5	1.6
保守新党	—	—	—	0.1	—
新進党	—	3.3	—	—	—
その他	2.5	1.7	1.1	1.1	0.2
支持政党なし	36.0	55.3	50.6	52.5	48.3
わからない	5.4	4.9	5.8	6.3	4.6

最も少ない<sup>17</sup>。そして第四に、脱政党化の現象である。政党支持なし層は第13回(平7)の55.3%と比較すると、若干減少傾向にあるが、それでも今回も48.3%と約半数が「支持政党なし」と回答している。

図9 政党支持率の変遷



## (2) 政党支持と投票行動

表5は、支持政党と道府県議選における投票政党の関連を見たものである。自民党を支持政党にあげた回答者の内、82.09%が自民党に投票している。これが自民党支持者の歩留りである。民主党支持者はその69.29%が民主党候補に投票し、11.02%が自民党候補への投票に流れている。また公明党支持者の歩留りは80.39%で11.76%が自民党に流れ、民主党への流出は皆無である。ここにも自民党と公明党の選挙協力関係の強さが明瞭に現れている。共産党支持者の歩留りは83.87%である。最も巨大な集団である政党支持なし層の投票行動はどうだろうか。表から明らかなように政党支

17 なお、平成7年のデータは公明に対する支持である。

持なし層は人数の上で最も大きく、その動向は政治を大きく左右する。投票した政党支持なし層のうち、自民党への投票者は31.18%、民主党への投票者は14.84%、無所属候補への投票者は18.49%であった。

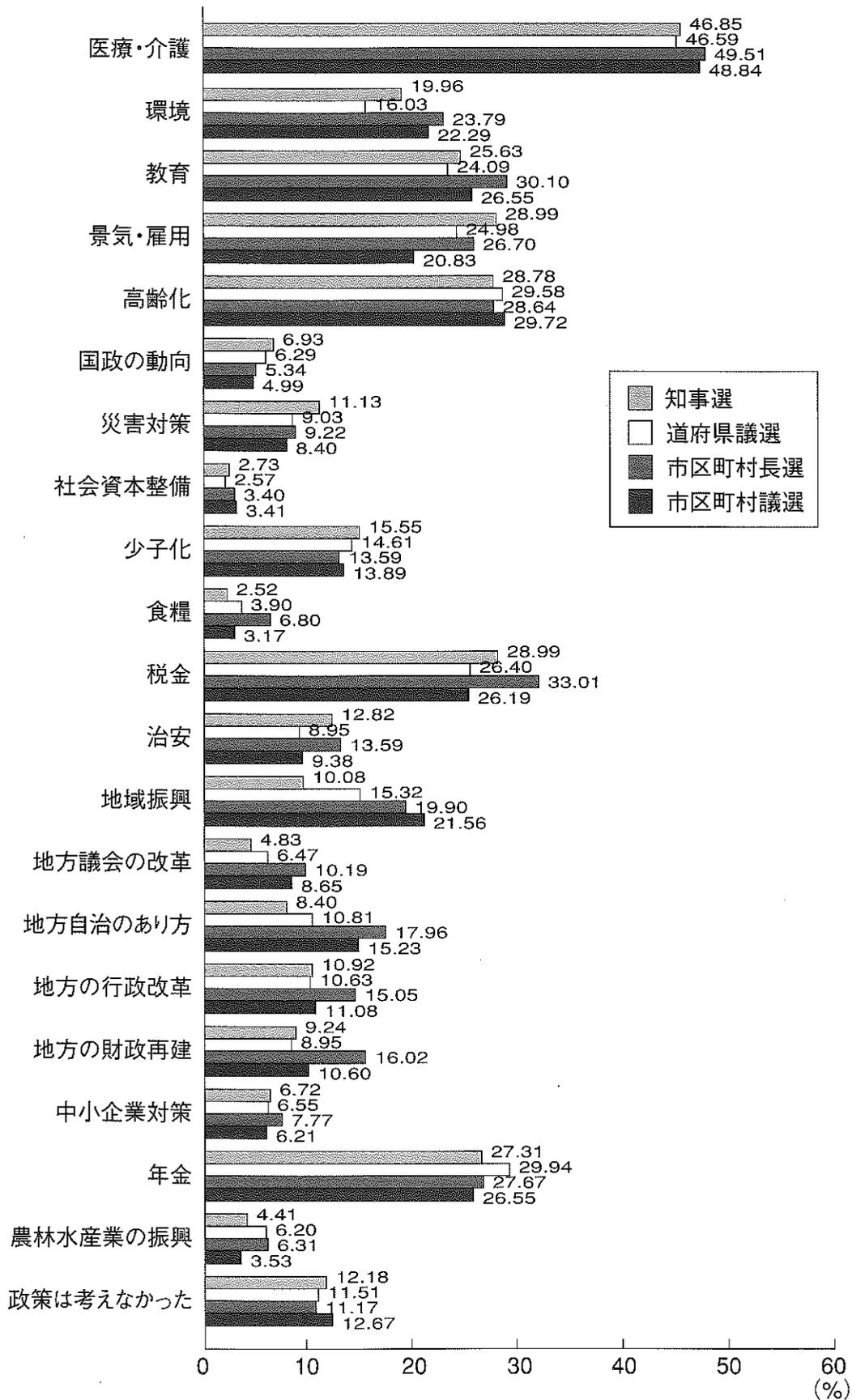
表5 支持政党と投票政党の関係(道府県議選)

		投票政党								実数
		自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	その他	無所属	わからない	
支持 政党	自民党	82.09%	4.81%	0.53%	0.53%	0.27%	0.00%	6.95%	4.81%	374
	民主党	11.02	69.29	1.57	1.57	0.00	0.00	11.81	4.72	127
	公明党	11.76	0.00	80.39	0.00	0.00	0.00	3.92	3.92	51
	共産党	3.23	3.23	0.00	83.87	0.00	0.00	3.23	6.45	31
	社民党	14.29	4.76	0.00	4.76	47.62	0.00	19.05	9.52	21
	その他	33.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	33.33	3
	支持政党なし	31.18	14.84	3.01	2.37	0.86	0.43	18.49	28.82	465
	わからない	12.28	5.26	1.75	1.75	0.00	0.00	8.77	70.18	57

### (3) 考慮した問題

今回の統一選において有権者が考慮した政策問題を、選挙の種類別に見てみよう。本調査では、「〇〇選挙で、あなたはどのような問題を考慮しましたか」と質問し、20項目から当てはまるもの全てを選択してもらった(図10参照)。最も選択率が高かった項目は「医療・介護」で、どの選挙においても半数弱の回答者が言及しており、この問題に対する関心の強さがうかがえる。次に高いのが、「教育」「景気・雇用」「高齢化」「税金」「年金」であり、いずれも25~30%程度の回答者が考慮した問題として挙げている。その一方で、「政策は考えなかった」という有権者も比較的多く、知事選12.18%、道府県議選11.51%、市区町村長選11.17%、市区町村議選12.67%となっている。

図10 考慮した問題



## 7 選挙関連情報源への接触

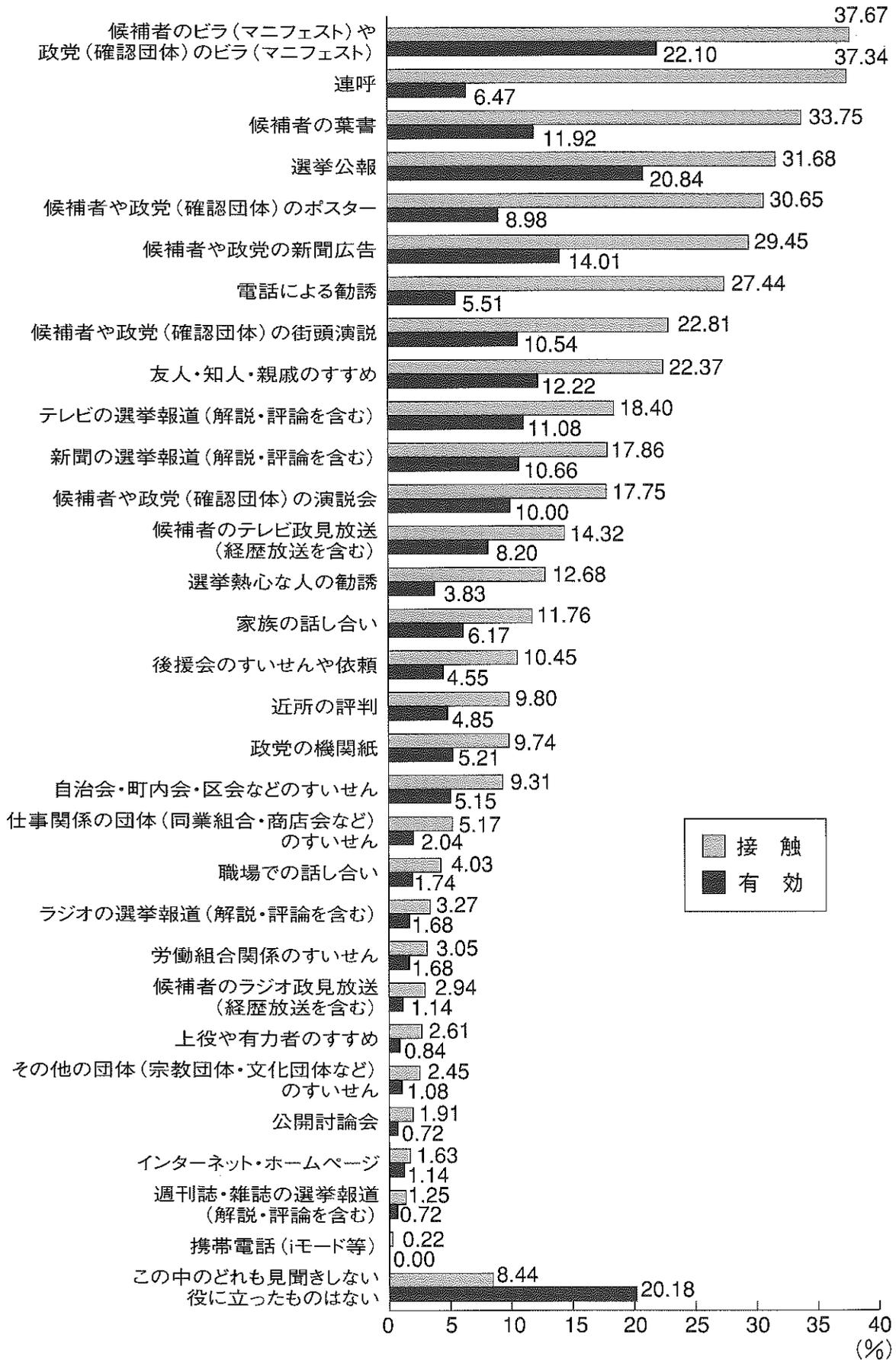
### (1) 情報媒体への接触度・有効度と効率性

本調査では、選挙関連情報源への接触に関して、次のような質問を行っている。「役に立ったか立たないかは別として、統一選で、あなたが見たり、聞いたり、すすめられたりしたものが、この中にありましたら、全部おっしゃってください」。回答者には、30項目から当てはまるものを全て選んでもらった。その回答をまとめたのが図11である。

接触度が高かったのは、「候補者のビラ(マニフェスト)や政党(確認団体)のビラ(マニフェスト)」と「連呼」で約37%の回答者が接触している。その他、30%以上の有権者が言及した項目として、「候補者の葉書」(33.75%)、「選挙公報」(31.68%)、「候補者や政党(確認団体)のポスター」(30.65%)がある。

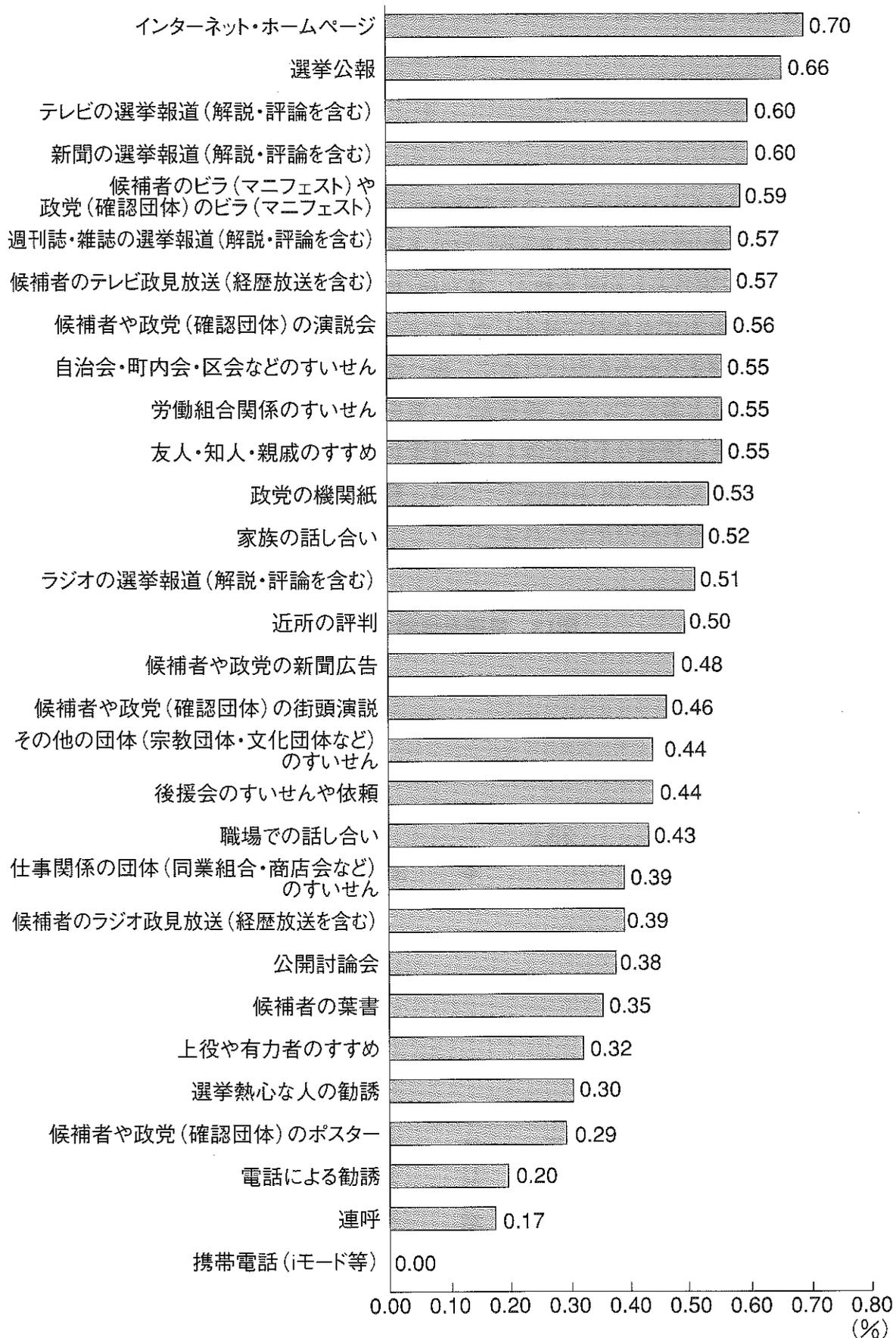
また本調査では、同じ30項目に関して、「候補者の情報を得るのに役に立ったものがこの中にありましたら、おっしゃってください」という質問も行っている。その回答も同じ図11に示してある。この図を見てわかるように、接触度が高い情報媒体が、必ずしも有効度(役に立つ度合い)が高い情報とは限らない。特に連呼は、接触度は37.34%と高いが、有効度は6.47%と低い。つまり、連呼は効率性が低い選挙情報媒体であると言える。

図11 情報媒体への接触度・有効度



その効率性を数値で表したのが図12である。この数値は、有効度を接触度で割ったものである。例えば、連呼の効率性は、 $6.47/37.34=0.17$ となる。図12を見ると、効率性が最も高いのは、「インターネット・ホームページ」で0.70、その次が「選挙公報」で0.66である。インターネットはまだ十分に普及していないため、接触率は低いですが、効率性は高い情報媒体であると言えよう。以下、「テレビの選挙報道」(0.60)、「新聞の選挙報道」(0.60)、「候補者のビラ(マニフェスト)や政党(確認団体)のビラ(マニフェスト)」(0.59)、「週刊誌・雑誌の選挙報道」(0.57)、「候補者のテレビ政見放送」(0.57)と、いわゆるマスメディアを通じた情報が続く。「電話による勧誘」(0.20)、「選挙熱心な人の勧誘」(0.30)、「上役や有力者のすすめ」(0.32)の効率性が軒並み低いことから、パーソナル・コミュニケーションを通じた情報は統一選での投票行動に際してあまり役に立たなかったということがわかる。

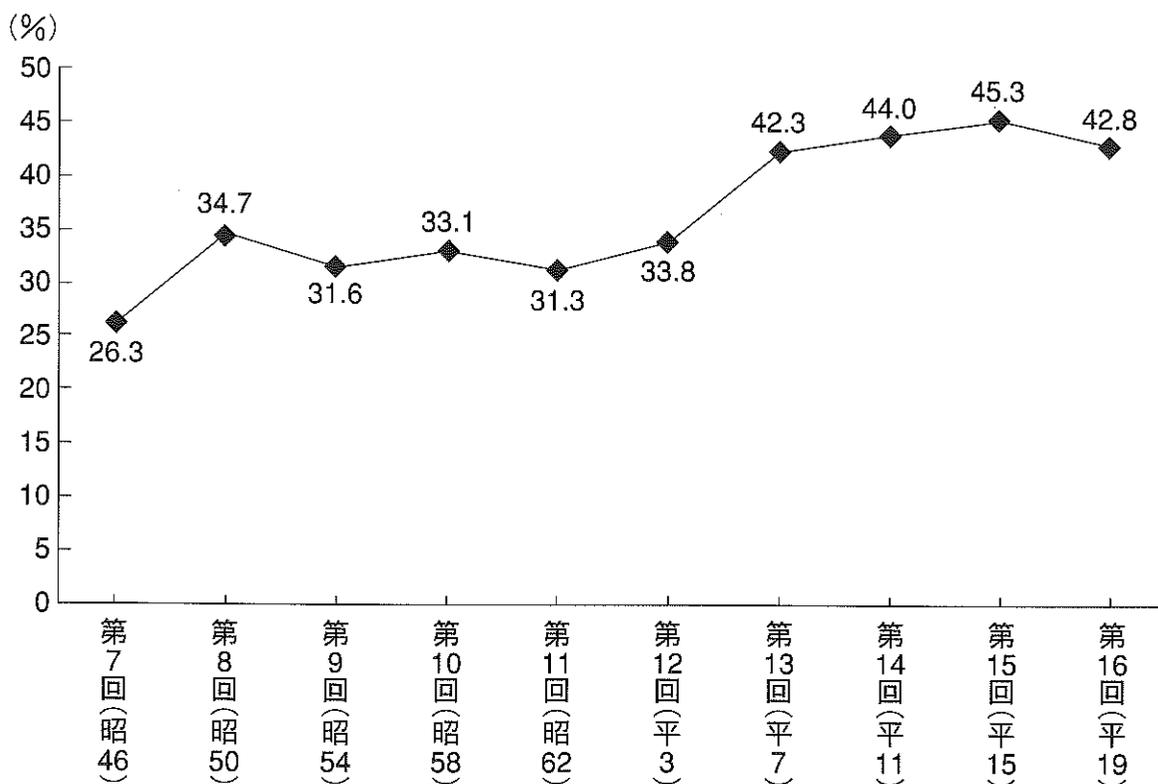
図12 情報媒体の効率性



## (2) 候補者情報の不足

本調査では、過去の調査と同様に、候補者に関する情報が不足していると感じているかどうかを次のように尋ねている。「地方選挙で『候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る』という声があります。最近の地方選挙で、あなたは、そうお感じになったことがありますか」。この質問に、感じたことが「ある」と答えた回答者の割合を、過去と比較できるようにしたのが図13である。この図からわかるように、候補者情報の不足を認識している有権者の数は、増加傾向にある。第8回(昭50)から第12回(平3)までは、その割合が30%台の前半であったのが、第13回(平7)から40%を超え、第15回(平15)は45.3%と最も高くなっている。今回は、42.8%とわずかながら減少したものの、それでも4割以上の有権者が「候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る」と感じたことがあると答えている。候補者に一票を投じる選挙制度を採る我が国において、候補者に関する情報の不足を訴える有権者が半数近くに上ることは、問題であろう。この割合が高くなっている原因の一つは、都市化や地域コミュニティとの接点の希薄化などに求められるのかもしれない。

図13 候補者情報の不足



上の質問で、感じたことが「ある」と答えた42.8%の回答者に、そう感じたのは「どの選挙でしたか」と尋ねたところ(複数回答可)、道府県議選62.5%、市区町村議選48.3%、知事選34.2%、市区町村長選29.9%との回答が寄せられた。このことから、議員選における候補者の情報がより不足していることが明らかである。これは、候補者が多過ぎて、全ての候補者の情報を得ることが困難であり、選択の判断が難しくなっているためではないかと推察される。逆に首長選は、候補者の数がある程度限られ、一人一人の候補者の情報がより伝わりやすいと考えられる。

## 8 選挙のあり方

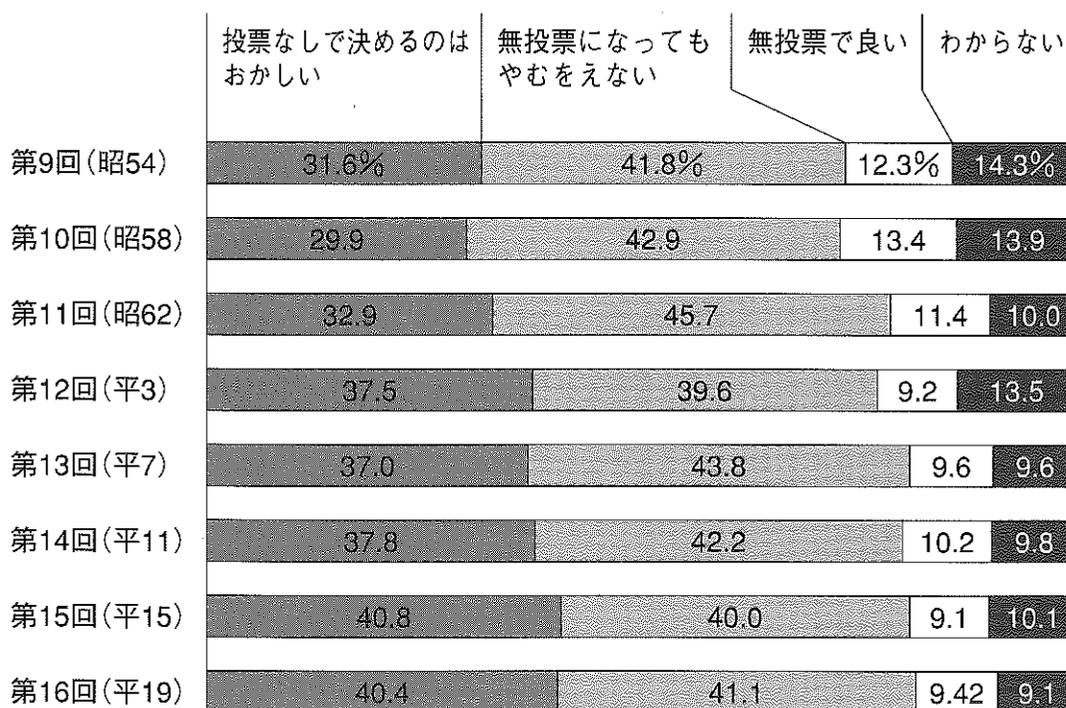
### (1) 無投票当選の是非

候補者の数が選挙区の定数を超えず、選挙なしに当選者が確定する、いわゆる、無投票当選については、有権者の投票の機会を奪うという観点から批判が多い。今回の統一選では、市長選19人、町村長選60人、道府県議選416人、指定都市市議選13人、市議選159人、町村議選740人の合計1407人が無投票で当選した。有権者はこれらの無投票当選をどのように受け止めているのだろうか。

本調査では、「今回の統一選では、道府県議会議員選挙や市区町村長選挙などに無投票当選がありますが、これについてあなたはどのように思われますか。この中からあなたの気持ちに近いものを1つだけあげてください」と聞き、(ア) 公職者（首長や議会議員）は投票で決めるのが本筋であるのに、投票なしに決まるのはおかしい、(イ) 定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になっても仕方がない、(ウ) 選挙のわずらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい、の3つの選択肢の中から1つ選んでもらった。図14がその結果である。

同じ質問を、第9回(昭54)から行っているのので、時系列的な比較が可能である。元々、「投票なしで決めるのはおかしい」と考える人に比べ「無投票になっても止むを得ない」と考える人の方が多かったのが、第12回(平3)頃から「投票なしで決めるのは

図14 無投票当選の是非

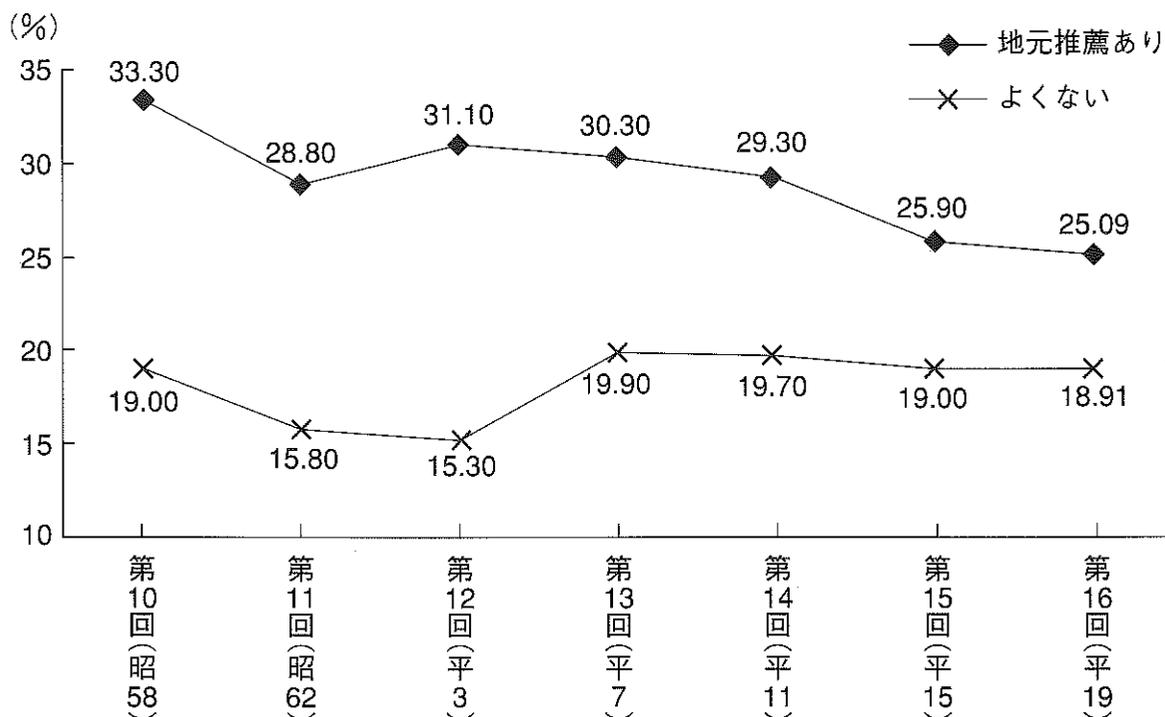


おかしい」と考える人が徐々に増加した。そして前回(平15)・今回(平19)と、「投票なしに決まるのはおかしい」と「無投票になっても仕方がない」の選択率は4割ほどで拮抗している。

## (2) 地元推薦について

次に地元推薦について見てみよう。地方選挙、とくに市区町村議選では、地元の有権者に対して特定の候補者に投票するように促されることがある。明るい選挙推進協会は、第10回統一選(昭58)以来、市区町村議選における地元推薦の有無と是非について、現在の形式で質問を行ってきた。その結果が図15に示されている。これによると、今回「地元推薦あり」と答えた人は25.09%と過去最低で、年を経るごとにこの比率は低下してきている。自由投票の原則から言って喜ばしい傾向である。また、「地元推薦があった」と答えた人々に、その是非について聞くと、18.91%が「地元推薦はよくない」と考えている。

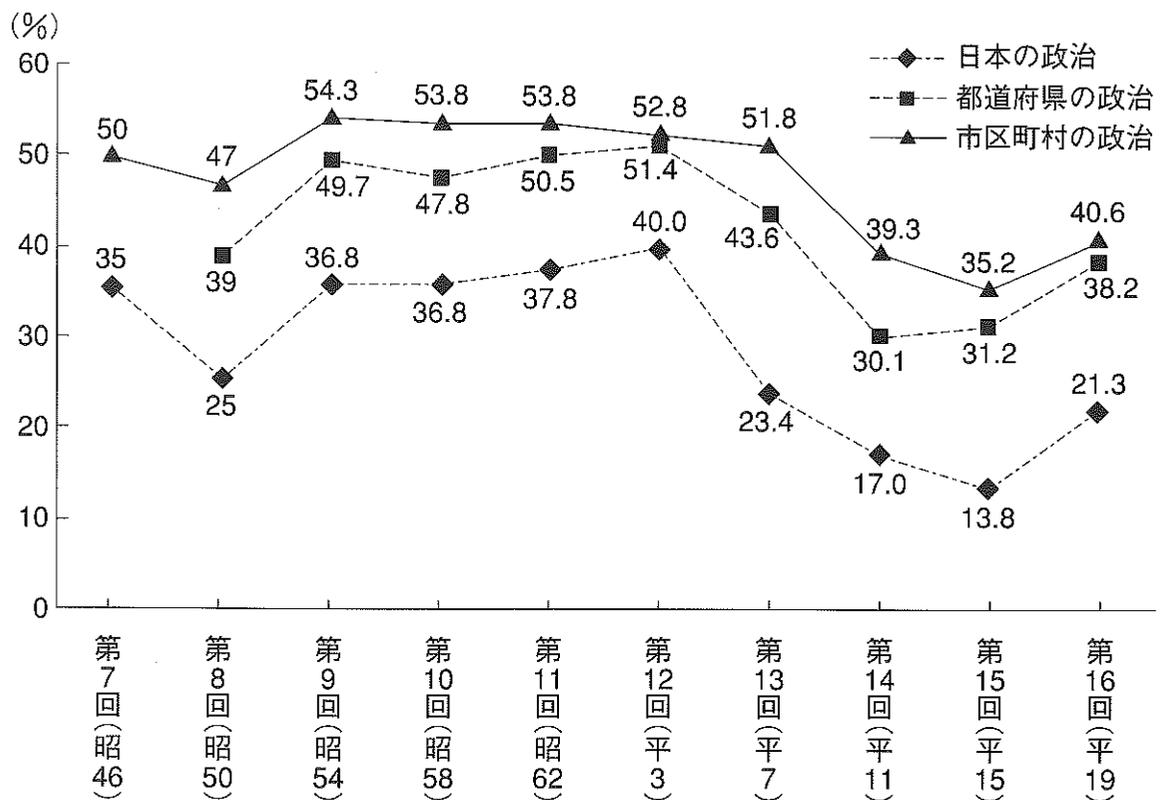
図15 地元推薦



## 9 国と地方の政治の評価

日本の有権者は、国や地方の政治をどのように評価しているのだろうか。「日本の政治」、「あなたの県(都・道・府)の政治」、「あなたの市(区・町・村)の政治」に分けて、「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」「どちらともいえない」の5つの選択肢で評価してもらった。図16は、第7回(昭46)以降の10回分の結果を時系列でまとめたもので、それぞれのレベルの政治に関して、「非常によい」と「まあよい」の肯定的な評価を総計し、比較したものとなっている。図からは次の2点が読み取れる。第一に、日本の政治より都道府県の政治の方が、また都道府県の政治より市区町村の政治の方が、評価がより高く、しかもこの傾向が一貫して見られるということである。第二に、いずれのレベルの政治に対する評価も、前回から今回にかけて改善しているということである。前回(平15)、「非常によい」と「まあよい」を合わせた比率は、日本の政治が13.8%、都道府県の政治が31.2%、市区町村の政治が35.2%であった。それが今回は、日本の政治が21.3%(プラス7.5ポイント)、都道府県の政治が38.2%(プラス7ポイント)、市区町村の政治が40.6%(プラス5.4ポイント)となっているのである。

図16 国と地方の政治に対する評価

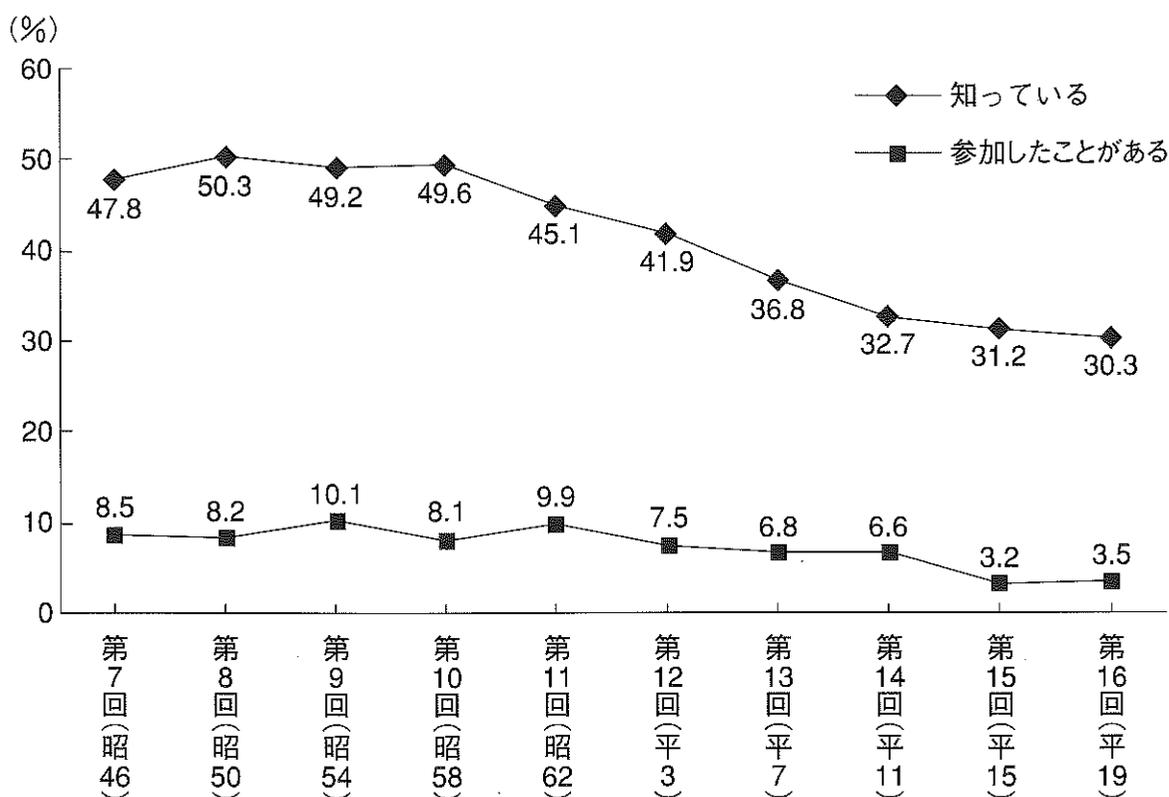


## 10 明るい選挙推進協議会の認知度

明るい選挙推進協議会をどのくらいの有権者が認知し、また同協議会の講演会、話し合い活動、学級講座に、どのくらいの有権者が参加したことがあるのだろうか。図17はその状況を時系列的に示している。「あなたの県(都・道・府)またはあなたのお住まいの市(区・町・村)に、選挙を明るく正しいものにするため、選挙管理委員会や社会教育関係と協力して活動を行っている、明るい選挙推進協議会(白ばら会など)があることをご存じですか」という形で尋ねた。明るい選挙推進協議会の認知度は近年低下傾向にある。今回も前回に引き続き下がり、30.3%と過去最低を記録した。一方、そうした諸活動への参加度については今回下げ止まり、3.5%で前回(3.2%)とほぼ同水準であった。

それでは、明るい選挙推進協議会の活動への参加と投票－棄権の選択にはどのような関係があるのだろうか。表6が示すように、明るい選挙推進協議会の諸活動に参加したことはないが、それを知っている人の道府県議選における投票率(85.75%)は知らない人の投票率(72.58%)よりも高い。さらに、明るい選挙推進活動を知っており、しかもそれに参加した経験のある人の投票率(94.34%)は、経験のない人の投票率よ

図17 明るい選挙推進協議会の認知度



り高い。その意味で、明るい選挙推進活動の周知とそれに対する参加の活性化は投票率向上の面からも重要である。

さて、総務省や都道府県・市区町村選挙管理委員会、明るい選挙推進協議会は、今回の統一選で、「投票に参加しましょう」という呼びかけを行った。この呼びかけに用いられた媒体の中で、回答者の10%以上が「見たり聞いたりした」と答えたものを、表7にまとめた。これによると、テレビや新聞が持つ宣伝力はかなり大きい。また、広報車や啓発ポスターも、比較的多くの人の耳目に届いていることがわかる。

表6 明るい選挙推進協議会の認知と投票率

	知事選	道府県議選	市区町村長選	市区町村議選
明るい選挙推進協議会を 知っている(参加経験あり)	94.74%	94.34%	***	96.67%
知っている(参加経験なし)	89.19	85.75	86.79%	87.78
知らない/わからない	76.71	72.58	75.86	73.71

\*\*\*はケース数10未満を指す。

表7 投票参加促進広告への媒体別接触率

	言及率
テレビスポット広告	47.96%
新聞広告	45.94
広報車	38.87
啓発ポスター	27.05
都道府県や市区町村の広報誌	21.56
立て看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン、電光掲示板	17.04
啓発チラシ	14.81
パレード・街頭での呼びかけ	14.53

言及率が10%を超えるもののみ表に記載。

## 11 政治家の寄附禁止の周知

平成2年2月の公職選挙法の改正により、政治家が選挙区内の人に寄附することは禁止され、原則として罰則の対象となった。このことについて、「政治家が、選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となりますが、あなたのご存じでしたか」と聞いたところ、前回(91.6%)とほぼ同じく92.71%の有権者が知っていると答えた。その意味で政治家の寄附禁止の周知度は極めて高い。では、具体的な禁止項目について有権者はどのくらい認知しているのだろうか。

この調査では、表8に挙げた寄附項目を調査対象者に示し、「政治家が、次に掲げるものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか。罰則をもって禁止されている寄附にあたると思うものをこの中からいくつでも結構ですからあげてください」という質問を行っている。このリストの内、「政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝」や「政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典」は、禁止されてはいるものの、罰則の対象にはならないので、この2つを挙げた場合は誤答になる。回答の傾向は前回(平15)・前々回(平11)の調査とほとんど変わっていない。具体的な禁止項目の認知は、最高の「お歳暮やお中元」でも、前々回が75.7%、前回が76.0%、今回が77.14%とあまり高くない。他方、「落成式、開店祝の花輪」(40.88%)、「秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典」(40.88%)、「秘書等が代理で出席する場合の結婚祝」(42.03%)、「病気見舞」(42.24%)は、認知度が4割程度と低い。一般的な政治家の寄附禁止の周知度は極めて高いが、禁止されている寄附行為の具体的形態についての有権者の認知度はいまだ不十分であるように思われる。

表8 寄附禁止項目の認知

		第14回 (平11)	第15回 (平15)	第16回 (平19)
正答	お歳暮やお中元	75.7%	76.0%	77.14%
	入学祝、卒業祝	62.8	63.1	65.11
	町内会の集会や旅行などの催し物への寸志や飲食物の差し入れ	57.3	54.1	59.06
	落成式、開店祝の花輪	55.1	52.8	40.88
	葬式の花輪、供花	51.2	50.6	53.51
	お祭りへの寄附や差し入れ	51.6	50.4	51.39
	地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れ	50.4	48.3	51.71
	秘書等が代理で出席する場合の結婚祝	41.4	42.5	42.03
	秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典	39.5	40.9	40.88
	病気見舞	39.3	40.0	42.24
誤答	政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝	29.4	34.1	33.70
	政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典	27.6	31.8	31.68

## 12 投票時間の延長について

平成9年12月に公職選挙法の一部が改正され、有権者ができるだけ投票しやすいように、投票環境が著しく改善された。その一つが投票時間の延長である。それまで、午後6時までであった投票時間が午後8時まで延長され、夕方まで仕事のある人や昼間はレジャーに出かける人も投票できるようになった。事実、その効果は極めて大きく、施行後初めて行われた、第18回参院選において、午後6時以後に投票した有権者は878万人以上を数えた。

本調査でも投票した人の投票時間を聞いているが、その結果を年齢別に見たものが表9である。この調査結果によると、投票時間と年齢には相関関係がある。具体的には、20歳代は午後6時以降に投票した割合が高く、道府県議選で投票した20歳代のうち32.08%が、午後6時以降に投票所に足を運んだという。投票時間の延長は投票率の長期低落傾向に歯止めをかけるために行われたものであるが、最も投票参加の少ない20歳代の有権者がこの制度改革によって投票に行きやすくなれば、投票率の向上に効果を持つことになろう。

本調査では、「平成9年の改正で投票時間が午後6時までから午後8時までに延長されていますが、このことについて、あなたは、どうお感じになられていますか」という質問を、調査対象者全員に対して行っている。その結果、81.11%が「今のままでよい」、12.03%が「もっと早く終了すべきである」、4.74%が「もっと遅くまで延長すべきである」との回答が得られた。したがって、現行の午後8時までの制度は概ね好評であると言える。

表9 年齢と投票時間(道府県議選)

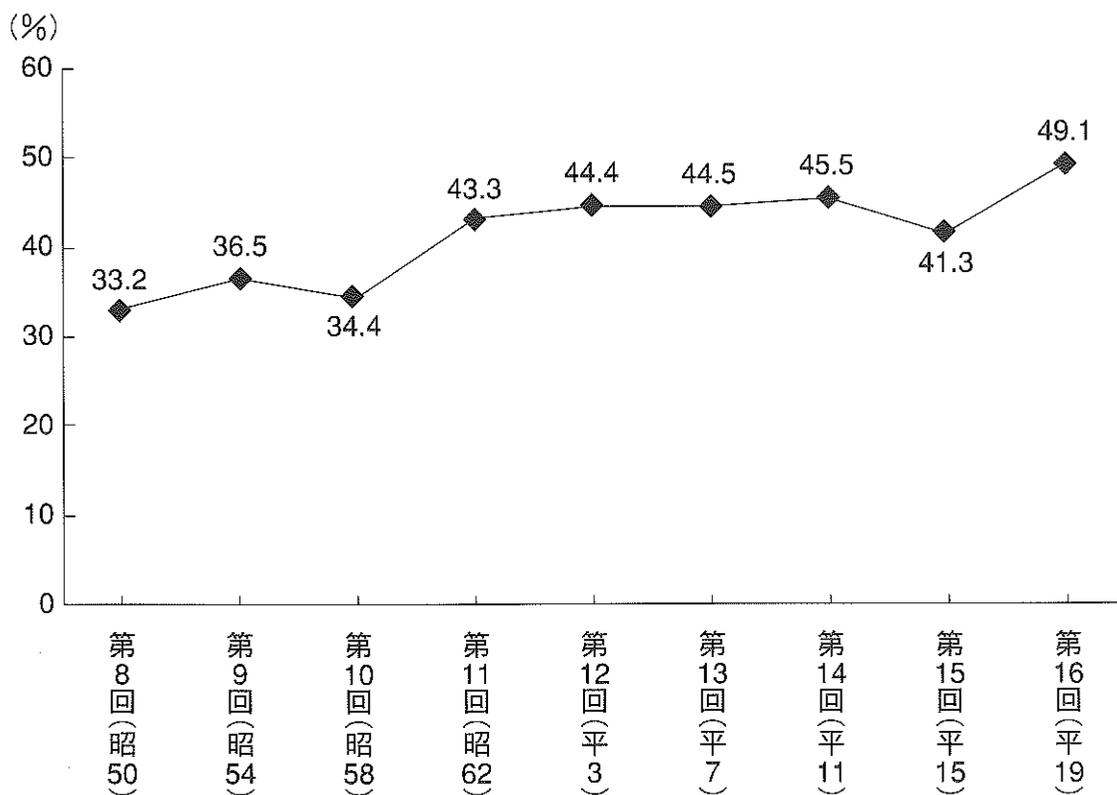
	午前中	午後6時まで	午後6時以降	実数
20歳代	28.30%	35.85%	32.08%	53
30歳代	45.76	42.37	11.86	118
40歳代	47.02	39.07	13.25	151
50歳代	53.61	32.47	12.37	194
60歳代	64.79	28.84	5.24	267
70歳以上	73.66	22.22	3.70	243

### 13 清潔度の印象

明るい選挙推進協会は、調査の度に、「今回の統一選は、全体として明るくきれいな選挙が行われたと思いますか、そうはいえないと思いますか」という質問を行っている。今回の調査では、49.1%が「明るくきれいに行われた」、13.7%が「そうはいえない」、19.6%が「一概にいえない」、17.6%が「わからない」と回答している。「明るくきれいに行われた」と回答した割合を時系列で見たのが、**図18**である。この割合は、前回(平15)の選挙でやや減少したのを除くと、第11回(昭62)から今回まで上昇傾向にあり、前回から今回にかけて7.8ポイント上昇した。

上の質問で、「そうはいえない」と答えた回答者に対し、「今回の選挙が明るくきれいに行われなかったのは、主としてこの中のどれに責任があると思いますか」という質問を行い、5項目から選んでもらっている。言及率が最も高いのが「候補者」で25.5%、次いで「政党」が22.3%、「有権者」が21.5%、「選挙制度」が15.1%、「選挙運動の取締りのやり方」の6.8%となっている。有権者の多くは、候補者・政党だけでなく、有権者の側にも何らかの問題があり、選挙が明るくきれいに行われていないと感じているようである。

図18 明るくきれいな選挙



## 14 まとめ

本報告書は、統一選直後に明るい選挙推進協会が実施した全国世論調査のデータに基づいて、今回の統一選における有権者の政治意識と政治行動を分析したものである。以下はそのまとめである。

- (1) 都道府県レベルの選挙と市区町村レベルの選挙への関心度を比較して見ると、首長選・議員選のいずれも、都道府県レベルに比べ市区町村レベルの方が、関心度が高い。
- (2) 投票するか棄権するかを選択に対する社会的属性の影響について見ると、年齢が高いほど、高学歴の人ほど投票率が高い。職業と投票率の関係では、第一次産業従事者と公務員の投票率が比較的高い。また、居住年数が長いほど、所属団体数が多くなるほど投票率も高くなる。
- (3) 投票するか棄権するかを選択に対する政治意識の影響について見ると、地元への愛着度、投票義務感、政治関心度、支持政党強度が高いほど投票率も高い。しかし、生活満足度や政治満足度と投票率にはそれほどの関連は見られない。
- (4) 投票と棄権の理由について見ると、「投票するのは住民の義務だから」という回答が多い。また、棄権した理由では、「用があったから」が最も多く、次に多いのが「選挙にあまり関心がなかったから」である。
- (5) 特定の候補者に投票するのを決めたのはいつ頃であったのかを質問すると、どの選挙についても回答者の4分の3が「候補者が出揃ったとき」と答えている。
- (6) 平成5年の非自民八党派連立政権の成立以来、日本の政党システムが大きく変動している。第一に挙げられるのは、自民党の支持基盤の縮小である。第二に、民主党の躍進と社会党(現社民党)の低迷、第三に、公明党の支持率の安定性である。そして第四に、脱政党化の現象である。今回、約半数が「支持政党なし」と回答している。政党支持なし層のうち、自民党への投票者は31.2%、民主党への投票者は14.9%、無所属候補への投票者は18.5%であった。
- (7) 今回の統一選において有権者が考慮した政策問題で、最も選択率が高かった項目は「医療・介護」である。どの選挙においても半数弱の回答者が言及しており、この問題に対する関心の強さがうかがえる。次に高いのが、「教育」「景気・雇用」「高齢化」「税金」「年金」であり、いずれも25~30%程度の回答者が考慮した問題として挙げている。
- (8) 選挙関連情報への接触度とその有用度について見ると、接触度が高かったのは、「候補者のビラ(マニフェスト)や政党(確認団体)のビラ(マニフェスト)」と「連呼」である。ただ、接触度が高い情報媒体が、必ずしも有効度(役に立つ度合い)が高い情報とは限らない。有効度が高いのは「選挙公報」、「テレビの選挙報道」、

「新聞の選挙報道」、「候補者のビラ(マニフェスト)や政党(確認団体)のビラ(マニフェスト)」、「週刊誌・雑誌の選挙報道」、「候補者のテレビ政見放送」と、いわゆるマスメディアを通じた情報である。インターネットはまだ十分に普及していないため、接触率は低いが、効率性は高い。

- (9) 今回の選挙で、候補者に関する情報が不足していると感じているかどうかを聞いてみると、情報の不足を認識している有権者の数は、増加傾向にある。4割以上の有権者が「候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る」と感じたことがあると答えている。
- (10) 無投票当選の是非については、「投票なしに決まるのはおかしい」と「無投票になっても仕方がない」の選択率は4割ほどで拮抗している。
- (11) 日本の政治より都道府県の政治の方が、また都道府県の政治より市区町村の政治の方が、評価がより高く、いずれのレベルの政治に対する評価も、前回から今回にかけて改善している。
- (12) 明るい選挙推進協議会の認知度は近年低下傾向にある。今回も前回に引き続き下がり、過去最低を記録した。明るい選挙推進協議会の諸活動を知っている人の道府県議選における投票率は知らない人の投票率よりも高い。しかもそれに参加した経験のある人の投票率は、経験のない人の投票率より高い。
- (13) 政治家が選挙区内の人に寄附することは禁止されている。それに関する周知度は極めて高いが、禁止されている寄附行為の具体的な形態についての認知度はいまだ不十分である。
- (14) 20歳代は午後6時以降に投票した割合が高い。投票時間の延長は投票率の長期低落傾向に歯止めをかけるために行われたものであるが、最も投票参加の少ない20歳代の有権者がこの制度改革によって投票に行きやすくなれば、投票率の向上に効果を持つことになろう。
- (15) 今回の統一選の清潔度について見ると、49.1%が「明るくきれいに行われた」と答えている。この値は第11回(昭62)から今回まで上昇傾向にあり、前回(平15)から今回にかけて7.8ポイント上昇した。

## 付録：調査対象者の社会的属性

### (1) 性別

性別	実数	%
男性	851	46.3
女性	986	53.7
合計	1,837	100

### (2) 年齢

年齢	実数	%
20～24歳	62	3.4
25～29歳	76	4.1
30～39歳	250	13.6
40～49歳	282	15.4
50～59歳	359	19.5
60～69歳	421	22.9
70歳以上	387	21.1
合計	1,837	100

### (3) 最終学歴

最終学歴	実数	%
小・高小・新中卒	292	15.9
旧中・新高卒	868	47.3
新高専・短大・専修学校卒	337	18.3
旧高専大・新大卒	295	16.1
大学院(修・博)卒	28	1.5
わからない	17	0.9
合計	1,837	100

## (4) 本人職業

本人職業	実数	%
農林漁業	58	3.2
商工サービス業・自由業	193	10.5
管理職	60	3.3
専門・技術職、事務職	320	17.4
販売・保安・サービス従事者	211	11.5
運輸・通信・生産工程従事者	172	9.4
学生	21	1.1
主婦	376	20.5
無職	412	22.4
わからない	14	0.8
合計	1,837	100

## (5) 業界の分布

業界分類	実数	%
公務	73	7.2
鉱業	6	0.6
建設業	90	8.9
製造業	182	17.9
電気・ガス・熱供給・水道業	5	0.5
運輸業	51	5.0
卸売・小売業・飲食店	201	19.8
金融・保険業	32	3.2
不動産業	10	1.0
新聞・放送・出版業・広告業・ 映画製作業	10	1.0
情報・通信サービス業	30	3.0
医療・福祉サービス業	95	9.4
教育・研究サービス業	49	4.8
法律・会計サービス業	14	1.4
その他のサービス業	100	9.9
その他	66	6.5
合計	1,014	100

(6) 居住年数

居住年数	実数	%
3年未満	88	4.8
3年以上	189	10.3
10年以上	239	13.0
20年以上(生まれてからずっと)	1,319	71.8
わからない	2	0.1
合計	1,837	100

(7) 都市規模

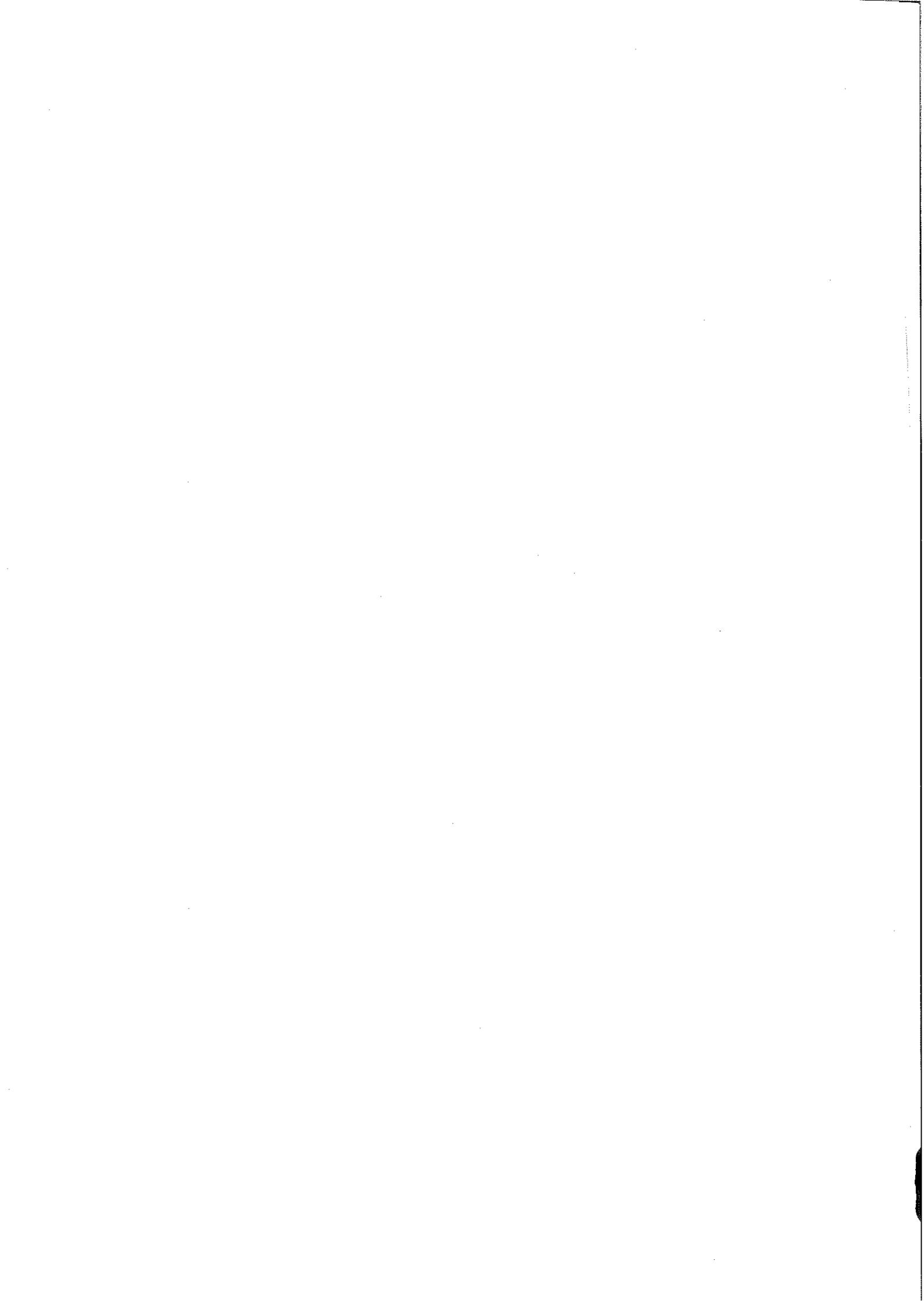
都市規模	実数	%
東京都区部	91	5.0
18大市	319	17.4
人口10万以上の市	797	43.4
人口10万未満の市	426	23.2
町村	204	11.1
合計	1,837	100

(8) 居住地域

居住地域	実数	%
北海道	87	4.7
東北	156	8.5
関東	498	27.1
北陸	101	5.5
東山	83	4.5
東海	204	11.1
近畿	301	16.4
中国	126	6.9
四国	74	4.0
北九州	119	6.5
南九州	88	4.8
合計	1,837	100

(9) 所属団体(複数回答)

所属団体	実数	%
自治会	135	37.5
婦人会	19	5.3
青年団・消防団	0	0.0
老人クラブ(会)	22	6.1
P T A	21	5.8
農協その他の農林漁業団体	10	2.8
労働組合	7	1.9
商工業関係の経済団体	9	2.5
宗教団体	8	2.2
同好会・趣味のグループ	37	10.3
住民運動・消費者運動・市民運動の 団体	4	1.1
N P O・地域づくり団体	4	1.1
その他	10	2.8
どれにも加入していない	72	20.0
わからない	2	0.6



---

## 第16回 統一地方選挙の実態

－調査結果の概要－

平成20年2月発行

編集・発行 財団法人 明るい選挙推進協会  
東京都港区虎ノ門2-1-1 商船三井ビル4階  
電話 03(3560)6266/6267  
ファクシミリ 03(3560)6268  
ホームページ <http://www.akaruisenkyo.or.jp/>

---